

CG3  
3  
01

獨逸法律書目錄

第八册

分等稅及分等收入稅法 千八百五十一年五月一日

第一章 分等稅ノ賦課及取立法

第二章 分等收入稅ノ賦課及取立法

附錄 穀肉稅ヲ取立ル郷ノ名稱

千八百五十一年五月一日ノ分等稅及分等收入稅改正規則

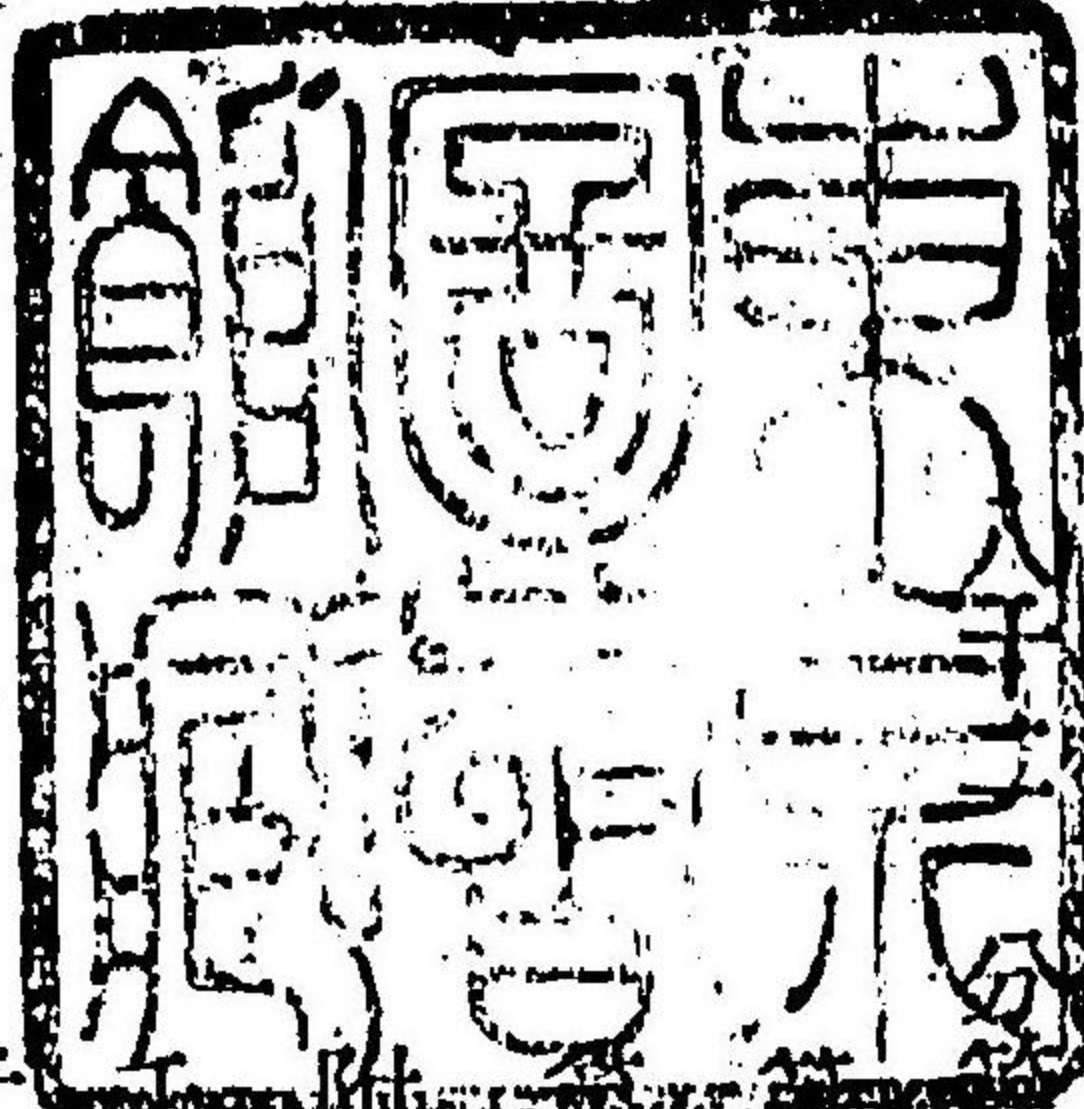
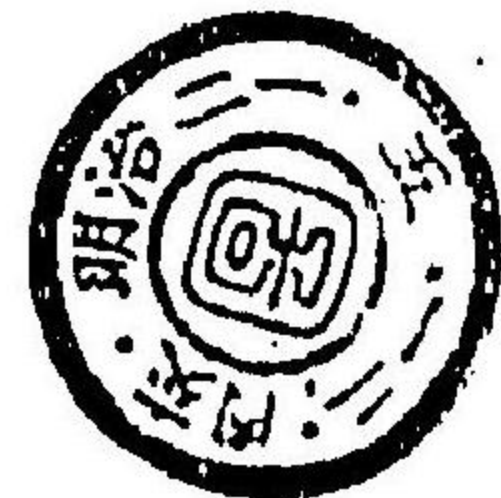
千八百七十三年  
五月二十五日

同年同月同日ニ發シタル穀肉稅ヲ廢スル規則 千八百七十三年  
五月二十五日

千八百七十四年一月二日ノ千八百五十一年一月一日ノ

規則第十五條ノ手數料ヲ增加スル規則

No 10022





千八百七十五年六月十六日ノ分等稅改正規則

千八百七十七年三月十二日ノ地稅分等稅分等收入稅ノ改

正規則

千八百五十一年五月一日及千八百七十三年五月廿五日ノ

規則ノ分等稅賦課法千八百七十三年五月二十九日

千八百五十一年五月一日及千八百七十三年五月二十五日

ノ規則ノ分等稅取立法及納稅者ノ出入故障控訴法千八百七十三年

年十二月十二日大藏卿布達

分等收入稅賦課法千八百七十七年三月四日大藏卿布達

八十三 地稅規則千八百六十一年五月二十一日發

土地ノ純益調查法同年同月同日

220013

第一 總則

第二 評定手續ニ關スル官吏及ヒ委員

第三 評定事務ノ豫備

第四 純益ヲ調査スル手續

第五 西二州ノ特別法

第六 末則

①附錄 田畑區圖面ヲ作り及ヒ土地ノ面ヲ確定スル布達

千八百六十一年五月二十一日

②附錄 郡ノ詳細圖ヲ作ルルニ注意スヘキ要件

③附錄 土地ノ純益ヲ評定スル法

④附錄 純益表



州郷ニ配賦スヘキ税額ヲ確定シ及ヒ東六州ニ於テ税額ヲ假  
リニ配賦取立ル布告千八百六十四年十二月十二日  
東六州ニ於ケル地税ノ配賦取立及ヒ過分ノ税ヲ賦課シタル  
爲メノ故障規則千八百六十七年二月八日

第一章 税額

第二章 地税ノ配賦

一 地税取立區

二 村里及地税取立區ニ於ケル地税ノ配賦

三 地税ノ配賦ニ對スル故障

四 過分ノ税ニ對スル故障

五 納税者團結官署等ノ義務

六 費用

第三章 課税額ヲ現在ノ情況ニ適ハシムルコト

第四章 地税ヲ取立ルコト

平均

期滿得免

第五章 免税

第六章 損害賠償

第七章 總則

八十四 家屋税規則千八百六十一年五月二十一日

家屋税賦課法千八百七十八年二月十一日大藏卿布達

①家屋税ノ賦課ニ係ル法律



- ㊦ 家屋税ヲ賦課スヘキ物件
- ㊧ 家屋税ヲ免スヘキ家屋
- ㊨ 使用價百分ノ四又ハ二ノ家屋税ヲ賦課スヘキ家屋
- ㊩ 一般賦課法
- ㊪ 郷及ヒ郷ト同視スヘキ郡内ノ地方ニ於ケル家屋ニ其使用價百分ノ四ノ税ヲ賦課スヘキ規則
- ㊫ 主トシテ家屋ヲ貸付ケサル郡内ノ地方ニ於テ其使用價百分ノ四ノ家屋税ヲ課スル規則
- ㊬ 例外ヲ爲ス家屋
- ㊭ 郡内ノ住家ヲ評定スル總則
- ㊮ 郡内ノ住家ヲ評定スルニ付キ邑内住家評定ニ比較

スヘキヲ

㊯ 郡内ノ住家ヲ評定スルト着目スヘキ要件

㊰ 使用價百分ノ二ノ家屋税ヲ賦課スル規則

家屋税賦課表

八十五 營業税規則 千八百二十年五月三十日

千八百二十年五月三十日ノ營業税改正規則 千八百六十一年七月十九日發

麵麩屋肉類販賣人麥酒製造人保險會社ノ世話人小賣人行

商ノ營業税改正規則 千八百七十四年六月五日發

坐商營業税賦課法 千八百七十六年五月二十日

緒言

第一章 免稅



第二章 課税ノ總則

第三章 課税規則

第四章 ㊶一 ㊶二 ㊶級商業税

第五章 ㊶級旅店酒店料理店

第六章 ㊶級工業税

第七章 又級

第二賦課法 同年同月同日額

第一章 營業者ノ監督

第二章 組合ノ委員

第三章 毎年ノ賦課法

第四章 故障及ヒ控訴ノ手續

第五章 納税者ノ出入

第六章 租税ヲ取立及延納税ノ處分

第七章 前年度ノ出入及税額ヲ補充スルコト

第八章 末則

八十六 グナリスト氏問答

法律命令ノ區別

帝室並ニ皇族財産

八十七 グナリスト氏講義

初編 自一千一百三十四年 至一千四百十五年

二編 自一千四百十五年 至一千六百四十年

三編 自一千六百八十八年 至一千七百十三年



四編 行政官省ノ組立

五編 自一千七百四十年  
至一千七百八十六年

六編 自一千七百八十六年  
至一千七百九十七年

七編 普魯西ノ瓦解及ヒ再興

八編 普國ノ獨逸連邦ニ合併シタルコ

九編 憲法政府

八十八 鐵道鑛業等ニ關スル損害賠償規則 千八百七十一年六月七日

八十九 一揆ノ際ニ生スル損害ヲ團結ヨリ償却スル規則 千八百五十年三月十一日

身躰自由保護規則 千八百五十年二月十二日

自由轉居規則 千八百六十七年十一月一日

獨逸法律書

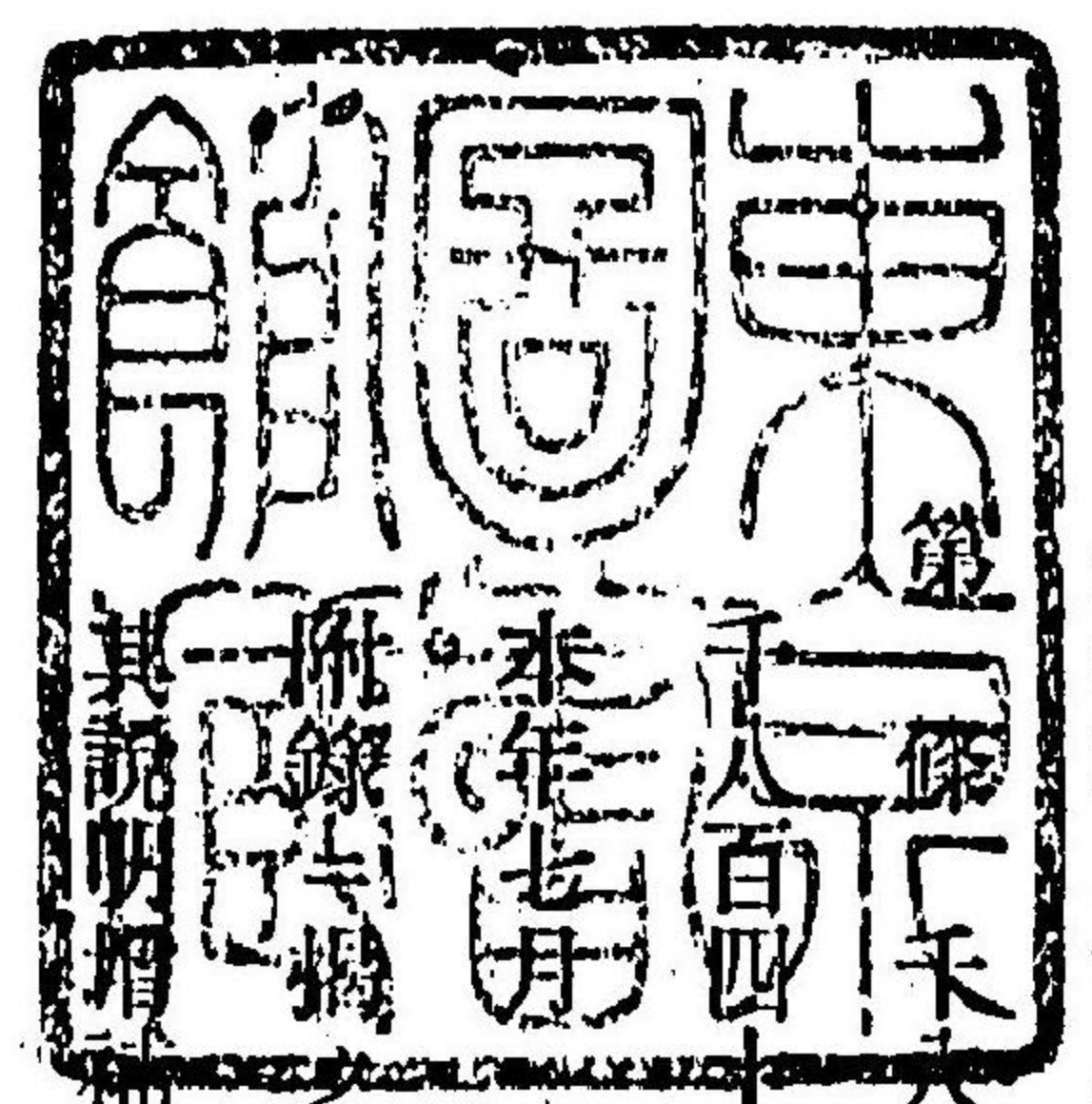
第八册

分等稅及ヒ分等收入稅規則 千八百五十一年五月一日發後年度

第六百二十年五月三十日ノ租稅規則第一條①ノ分等稅及ヒ

千八百四十八年四月四日ノ穀物稅ヲ廢スル假規則ノ直接補充稅ハ

本年七月 日ヨリ廢止タルヘシ



ル地方ノ穀肉稅ハ千八百二十年五月三十日ノ法律及ヒ

其說明増補改正規則ニ因テ仍ホ之ヲ取立テ當時穀稅ヲ取立サル地

方ニ於テハ本年一月一日ヨリ更ニ之ヲ取立ツヘシ

穀肉稅ヲ拂フヘキ團結ニ於テハ後來モ亦穀稅總額ノ三分一ヲ團結

ノ費用ニ充ツヘシ

分等稅及分等收入稅法



第二條 現今廢シタル租税ニ換ヘ又ハ穀肉税ト共ニ本年七月一日ヨリ取立ツヘキ税ハ左ノ如シ

① 穀肉税ヲ課セサル地方ニ於テハ毎年収入千「ターレル」以下ヲ有スル人口ヨリ新タニ分等税ヲ取立ツヘシ

② 全國內ニ於テ一年ノ収入千一「ターレル」以上ヲ有スル人口ヨリ分等收入税ヲ一般ニ取立ツヘシ但穀肉税ヲ課スル地方ニ於テハ穀肉税ヲ完納スル爲メ毎年二十「ターレル」ヲ扣除シ其收入ノ殘額ニ課スヘシトス

第三條 穀肉税ヲ課スル地方ノ人民臨時分等税ヲ課スル地方ニ滞在スル其分等税ヲ完納スルニ及ハス然レモ分等税ヲ課スル地方ノ人民臨時穀肉税ヲ課スル地方ニ滞在スル其穀肉税ヲ完納スルカ爲

メ分等税ノ免税ヲ求ムルコトヲ得ス又分等收入税ヲ完納スヘキモノハ其減税ヲ求ムルコトヲ得ス分等税及ヒ穀肉税ヲ課スル兩地方ニ住居スル者ハ分等税又ハ分等收入税ノ全額ヲ拂フヘシ

第四條 穀肉税ヲ廢シテ分等税ヲ科シ分等税ヲ廢シテ穀肉税ヲ科スルニハ法律ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第一章 分等税ノ賦課取立法

第五條 分等税ハ穀肉税ヲ課セサル地方ニ於テ毎年千「ターレル」以下ノ収入ヲ有スル人口ニ課スヘシ

第六條 分等税ヲ免スルモノハ左ノ如シ

① 滿十六歳以下ノ者

② 常備兵後備兵ノ本隊ニ在ル下士官兵卒及ヒ其家屬但自己又ハ分等税及分等收入税法



其家屬ニ於テ營業農業ヲ營マサルキニ限ルヘシ

⑧ 後備兵ノ下士兵卒及ヒ其家屬ハ召集セラレタル月常備兵後備兵ノ士官及ヒ軍屬ハ出陣ノ時間

⑨ 一等級ノ④(第九條)ニ屬スルモノニシテ課税ノ年ノ一月一日ニ滿六十歳ニ至リタルキ

⑩ 常ニ公ケノ窮民救助ヲ受クル貧窮人又ハ公立建築物ニ於テ公費ノ保養ヲ受ル者

⑪ 未タ一年間内國ノ同地方ニ滞在セサル外國人但營業ノ爲メ滞在スル者ハ此限ニ在ラス

⑫ 鐵道ノ十字架千八百十三年ノライフチ所有者及ヒ其家屬但一等第九條ニ屬スル者ニ限ルヘシ

⑬ 特別ノ褒章ヲ受ケサルモ内國人又ハ當時未タ普國ニ屬セサル地方ノ住民トシテ締盟國又ハ其他ノ兵籍ニ入テ千八百六年ヨリ千八百十五年マテノ戰爭ニ加ハリタル者及ヒ其家屬但一等級ニ屬スル者ニ限ルヘシ

第七條 租税ハ三等ニ分チ各等ハ級ニ分テ取立ツヘシ各級ニ於テハ等級ノ區別ト爲ルヘキ一般ノ徵證ト一般ノ活計及ヒ之レニ因テ異ナル所ノ財産ニ從テ各納税者ノ收入ヲ定ムヘシ  
最下等(一等)ハ其所有地又ハ營業ノ範圍及ヒ性質ニ因リ其收入ノミヲ以テ獨立スルヲ能ハサルカ爲メ日傭賃又ハ之ニ類スル勞力賃ヲ以テ其不足ヲ補フヘキ土地所有者及ヒ營業者其他勞力者職工ノ手傳人雇人日雇人ヲ含蓄ス

分等税及分等收入税法



二等ハ其所有地又ハ營業ノ收入ヲ以テ獨立シ得ル小ナル土地所有者營業者其活計ニ於テ以上ノ者ト同視スヘキ小作人他人ヨリ賃錢及ヒ食物ヲ受クルト雖モ其勞力及ヒ賃錢ノ性質ニ因リ日雇人又ハ雇人ト看做ス可能ハサル者其收入其他活計ニ因リ以上ノ納稅者ト財產ノ多寡ヲ均シクスル政府及ヒ團結ノ官吏醫師公證人等ヲ含蓄ス

三等ハ二等ノ者ニ比スレハ有福ナレモ其收入未タ分等收入稅ヲ科スヘキ高ニ至ラサル者ヲ含蓄ス

第八條 ①租稅ハ通常戶毎ニ取立ツヘシ ②一戶トハ雇主及ヒ婦ノ獨立スルモハ婦及ヒ衣食住ヲ共ニスル家屬ヲ云フナリ ③俸給又ハ賃錢ヲ受ケテ他人ニ仕フル者及ヒ飲食ヲ受クル者ハ家屬ニ屬セ

ス ③租稅ヲ取立ツヘキ一戶ニ屬セス又ハ獨立シテ一戶ヲ立サル納稅者ハ其所屬級ノ全額ヲ納ムヘシ

第九條 等級一ヶ月租稅高ハ左ノ如シ

① 第一等ノ一級

一 一級

①一級ハ一人ニ付キ一「シルベルグロ―セン」ト三「フエンニヒ」ナリ但此級ニ在テハ一戶内ノ納稅者二人以上ニ其稅ヲ課スヘカラス

② 下級ハ二「シルベルグロ―セン」六「フエンニヒ」ナリ但一箇人ノ納稅者ノミニ課スヘシ

二 二級ハ五「シルベルグロ―セン」ナリ

分等稅及分等收入稅法



三 三級ハ七「シルベルグロ―セン」六「フェンニヒ」ナリ

㊦ 第二等

四 四級ハ十「シルベルグロ―セン」ナリ

五 五級ハ十二「シルベルグロ―セン」六「フェンニヒ」ナリ

六 六級ハ十五「シルベルグロ―セン」

七 七級ハ二十「シルベルグロ―セン」

八 八級ハ二十五「シルベルグロ―セン」

㊧ 第三等

九 九級ハ一「ターレル」ナリ

十 十級ハ一「ターレル」十「シルベルグロ―セン」ナリ

十一 十一級ハ一「ターレル」二十「シルベルグロ―セン」ナリ

十二 十二級ハ二「ターレル」ナリ

但一戸又ハ一已人ノ納税者ニ課スヘシ

第十條 ㊨第七條ノ一般ノ徴證ニ因リ第九條ノ各級ニ屬スヘキ評定

ヲ爲スハ委員ノ職務ナリ其委員ハ團結長官ト團結會ニテ撰舉シタル者ヨリ成リ郡長ノ監督ヲ受クヘシ郡長ハ又預シメ之ヲ検査スヘシ其税額ハ縣廳ニ於テ確定スヘシ

㊩ 團結長官ハ又郡長ノ監督ヲ受ケテ一年度ノ納税者氏名簿及ヒ出入氏名簿ヲ作ルヘシ

㊪ 租税ハ租税取立人ヲシテ取立セシムヘシ

㊫ 租税取立方法ハ地方ノ情況ニ因リ別ニ布達ヲ發シテ之ヲ定ムヘシ

分等税及分等收入税法



租税ノ賦課取立法ノ規則ニ違ハサルヤ否ハ縣廳ニ於テ監督スヘシ

第十一條 穀肉税ヲ課スル郷又ハ外國ヨリ分等税ヲ課スル地方ニ轉

住スルカ爲メ又ハ其他ノ理由ニ因テ納税ノ義務ヲ負擔シタル者ハ其義務ヲ負擔シタル翌月ヨリ分等税ヲ完納スヘシ此場合ニ於テ團結長官ハ先ツ分等税額ヲ定メ縣廳ニ於テ之ヲ確定スヘシ

又滿六十歳ト爲ルカ穀肉税ヲ課スル郷又ハ外國ニ轉住スルカ爲メ又ハ他ノ事由ニ因テ分等税ヲ免ズヘキハ免税ノ事由アル翌月ヨリ其税ヲ免スヘシ

分等税ヲ課スル一地方ヨリ他ノ地方ニ轉シタルハ其轉住シタル月ノ分等税ハ仍ホ舊來ノ住所ニ納ムヘシ

第十二條 ①住家ノアル土地所有者又ハ其代理人ハ納税義務アル戸

及ヒ一箇人ノ氏名簿ヲ作ル官署ニ對シ正當ナル届出ヲ爲スヘシ

② 戸主ハ其家屬及ヒ其戸内ノ納税者ノ届出ニ付キ其責ヲ負フヘシ

③ 氏名簿ヲ作ル時又其他租税官署ノ尋問ヲ受ケ一年内ニ届出ヲ爲サ、ル納税者ハ延納税ヲ納ムル外ニ年額四倍ノ罰金ニ處セラ  
ルヘシ

④ 此規則ニ背キタル者ノ審問ハ裁判所ニ於テ爲スヘシ但納税者ニ於テ官署ヨリ定メタル期限内ニ延納税罰金其他ノ費用ヲ納メタルハ此限ニ在ラズ

第十三條 ①納税簿ノ公告ハ最初此規則ヲ頒布シタル後相當ノ期限

分等税及分等收入税法



内ニ已後ハ每年初期ニ爲スヘシ

㊦ 納税簿ヲ公告シタルキ納税者ハ毎月初八日内ニ其税ヲ先納スヘシ但一時ニ一年以内ノ金額ヲ納ムルモ勝手タルヘシ

㊧ 延納者ニ於テ租税取立人ヨリ三日内ニ完納スヘキ督責ヲ受ケ仍ホ納メサルキハ之ヲ執行スヘシ

㊨ 毎月ノ終五日前ニ取立タル税及ヒ其不足アレハ其事由及ヒ殘金ヲ相當ノ出納局ニ引渡スヘシ

租税取立人ノ爲メ此期限内ニ一定ノ引渡期日ヲ定ムルモ妨ケナシ

㊩ 租税取立人ハ真正ノ不足又ハ執行スルモ其効ナキコトヲ直ニ證明シ能ハサルキハ其責ニ任シ出納局ニ之ヲ立替フヘシ

第十四條 ①分等税ノ賦課法ニ對スル故障ハ第十三條①ノ公告アリ

タル後又一年内他ヨリ來住スル者又ハ免稅者ノ税ヲ出スコニ爲リタルキハニ賦課シタルキハ

其通知アリタル後三ヶ月ノ期滿失權期限内ニ郡長ニ申立ヘシ

㊰ 故障ヲ申立ルモ租税ノ完納ヲ延滯スヘカラス但一定ノ期日第十

三條ニ納メタル過分ノ税ヲ還付スルハ勿論ナリ

㊱ 故障ハ郡會ニテ撰舉シタル委員ノ意見ヲ聞キ縣廳ニ於テ裁定スヘシ委員ノ意見ニ異ナル裁定ハ全員會ノ決議ヲ以テ爲スヘシ

㊲ 縣廳ノ裁定ニ對シテハ故障申立人ヨリ其裁定書ヲ受領シタル後六週間ノ期滿失權期限内ニ大藏省ニ控訴ヲ爲スコトヲ得但控訴狀ハ郡長ニ差出スヘシ

㊳ 千八百四十年六月十八日ノ租税期滿免除規則ハ分等税ニモ亦分等税及分等收入税法



適用スヘシ但此規則ニ於テ別ニ定メアルモノハ格別ナリ

第十五條 地方ヲ限ル租稅取立方ハ從前ノ規則ニ從フヘシ

筆墨雜形等ノ費用ニ充ツヘキ手數料ハ取立タル租稅ノ百分ノ四ヲ越ユヘカラス

第二章 分等收入稅ノ賦課及ヒ取立法

第十六條 分等收入稅ハ皇族及ヒ兩「ホーエンツオエレレン」公家ヲ

除キ獨立シテ又ハ家屬ニ特別ノ收入アルルハ之ヲ合算シテ毎年千

一「ターレル」以上ノ收入ヲ有スル國內住民及ヒ外國ニ滞在スル國

民ニ課スヘシ

第十七條 普國人ノ所有地外國ニ在ルルハ外國ニ於テ其收入ヨリ同

一ノ租稅ヲ完納スルコトヲ證明シタルルルハ分等收入稅ヲ免スヘシ

第十八條 內國ニ土地ヲ所有スル外國人モ其土地ノ收入千「ターレ

ル」以上ニ至ルルルルハ分等收入稅ヲ拂フヘシ又內國ニ製造場又ハ商店

ヲ有スルカ又ハ其組合人タル外國人モ亦同シ

其他ノ外國人ハ營業ノ爲メ又ハ一年以上普國ニ滞在スルニ非サレ

ハ分等收入稅ヲ完納スルニ及ハス

第十九條 分等收入稅ハ所有地、資本金、年賦金、其他ノ利益、營業又ハ

利益アル事業ヨリ得ル總收入ニ賦課スヘシ其收入ニ因リ各納稅者

ヲ第二十條ノ等級ニ評定スヘシト雖モ其稅額ハ收入百分ノ三ヲ越

ユヘカラス

第二十條 一箇月ノ稅高ハ左ノ如シ

一級ハ二「ターレル」十五「グローセン」

分等稅及分等收入稅法



- 二級 八三「ターレル」
- 三級 八三「ターレル」十五「グローセン」
- 四級 八四「ターレル」
- 五級 八五「ターレル」
- 六級 八六「ターレル」
- 七級 八七「ターレル」
- 八級 八八「ターレル」
- 九級 八九「ターレル」
- 十級 八十「ターレル」
- 十一級 八十二「ターレル」
- 十二級 八十五「ターレル」

- 十三級 八十八「ターレル」
- 十四級 八二十四「ターレル」
- 十五級 八三十「ターレル」
- 十六級 八四十「ターレル」
- 十七級 八五十「ターレル」
- 十八級 八六十「ターレル」
- 十九級 八八十「ターレル」
- 二十級 八百「ターレル」
- 二十一級 八百三十「ターレル」
- 二十二級 八百六十「ターレル」
- 二十三級 八百「ターレル」

分等税及分等收入税法



- 二十四級ハ二百五十「ターレル」
- 二十五級ハ三百「ターレル」
- 二十六級ハ三百五十「ターレル」
- 二十七級ハ四百「ターレル」
- 二十八級ハ四百五十「ターレル」
- 二十九級ハ五百「ターレル」
- 三十級ハ六百「ターレル」

第二十一條 分等收入税ノ收入ヲ評定スル爲メ毎年各郡又ハ郡ニ屬セサル邑ニ於テ郡長又ハ縣廳ヨリ命シタル主任者ヲ會長ト爲シ委員ヲ設クヘシ其人員ハ郡會又ハ團結會ニテ三分一ヲ其議員中ヨリ又其三分ノ二ヲ郡邑ノ分等收入税納税者ヨリ撰擧スヘシ

納税者ヨリ撰擧スルニハ郡邑内ノ諸納税者(所有地資本金營業上ノ收入)ヲ平等ニ加ハラシムルコトニ注意スヘシ  
 當撰者ハ後見人タルヲ拒ミ得ル事由又ハ已ニ三年間繼續シテ委員タリシ場合ニ非サレハ其撰擧ヲ拒ムコトヲ得ス  
 委員ノ數ハ郡邑ノ大小及ヒ住民ノ收入ノ高ニ因テ縣廳ヨリ之ヲ定ムヘシ

又縣廳ハ同郡内ニ於テ大ナル邑村ノ爲メ以上ノ規則ニ從テ別ニ委員ヲ設ケシムルコトヲ得大ナル邑ニ於テハ數箇ノ附屬委員ヲ設クルコトヲ得

第二十二條 評定委員長ハ同時ニ政府ノ利害ヲ圖ルヘキ者ニシテ郡區内ニ於テ科税ノ義務ヲ總轄シ此規則ニ因テ賦課スヘキ責ヲ負フ  
 分等税及分等收入税法



ヘシ

委員長ハ特ニ分等税表及ヒ其他ノ書類ニ因リ分等收入税ヲ賦課スヘシトシタル區内ノ住民及ヒ外國滞在ノ土地所有者ノ明細書ヲ作ルヘシ

又委員長ハ同時ニ納税者ノ所有及ヒ財産營業其他收入上ノ關係ヲ調査スル等總テ收入ヲ評定シ易カラシムル證憑ヲ集取スヘシ但鑑リニ一己人ノ家事ニ立入ルヘカラス

納税者及ヒ財産收入ヲ調査スル爲メ委員長ハ其見込ニ因リ團結長官ノ補助ヲ求ムルコトヲ得團結長官ハ必ス其求ニ應スヘシ

調査ヲ終リタル後委員長ハ其區内ノ明細書ヲ作り其一定ノ部ニ於テ總收入ニ因リ評定シタル納税者ノ等級ニ付キ意見ヲ附スヘシ但

第二十八條ヨリ第三十條マテノ評定規則ニ從フヘシ

其地委員長ハ管轄委員ノ決議ヲ豫備シ且其議決ニ對シ縣内委員「第二十三條」ニ控訴ヲ爲サ、ルルハ之ヲ施行スヘシ

第二十三條 委員ハ現在ノ證憑ニ因リ委員長ノ明細書ヲ検査スヘシ但此場合ニ於ケルモ亦(第二十二條)納税者ノ家事ニ立入ルヘカラスト雖モ收入ノ評定ニ必要ナリトシタルモハ爭訟ニ非サル裁判調書裁判所又ハ公證人ニテ財産目錄ヲ作り又ハ財産ヲ封印レ動産ヲ公賣シ契約書遺言書ヲ作ル類及ヒ土地書入簿ヲ點檢スルコトヲ得

検査終リタル後委員ハ其調査又ハ其他知リタル納税者ノ關係ニ因リ所屬等級ヲ確定スヘシ

其等級及ヒ税額ハ封書ヲ以テ納税者ニ通知シ且其書面ニハ評定ニ分等税及分等收入税法



對シ委員長ヲ經テ三ヶ月ノ期滿失權期限内ニ縣内委員(第二十四條)ニ故障ヲ中述ヘ得ルコトヲ記スヘシ其期限ノ最初六週間内ニ納稅者ノ望ニ因リ自己又ハ信任者二名以上ヲシテ文書ヲ差出シ又ハ對審ヲ以テ又ハ他ノ證據ヲ以テ委員ニ過度ノ課稅ナルコトヲ知ラシメ之ヲ改正セシムルモ勝手タルヘシ

委員ノ議決ハ過半数ニ因テ爲スヘシ委員長ハ可否同數ナルキニ限り投票權ヲ有シ其投票ニ因テ決スヘシ

委員ノ議決ニ對シ委員長ヨリ縣内委員ニ控訴ヲ爲スコトヲ得其裁判アルマテハ委員ノ確定シタル稅額ヲ完納スヘシト雖モ他日還付スヘキハ格別ナリ

委員ノ議決書ハ委員長委員二名以上ニテ之ヲ作ルヘシ

第二十四條 縣内及ヒ都府伯林ニ於テハ大藏卿ノ命シタル主任者ヲ會長ト爲シ委員ヲ設クヘシ其人員ハ郡内ノ委員ノ如ク州會ニテ縣内住居ノ議員及ヒ分等收入稅ノ納稅者ヨリ撰擧スヘシ

委員ノ數ハ各縣ノ大小及ヒ住民ノ收入高ニ因リ大藏卿ヨリ之ヲ定ムヘシ此委員ニ在テモ諸納稅者ヲ平等ニ加ハラシムルコトニ注意スヘシ其投票ヲ拒ミ得ル事由ハ第二十一條ニ從フヘシ

第二十五條 委員長ハ縣内ニ於テ政府ノ利害ヲ圖ルヘキモノニシテ租稅ヲ確實ニ賦課スルコトヲ監督スヘシ故ニ縣内課稅ノ事務ヲ總轄シ課稅規則ヲ平等ニ施行シ郡委員長ノ事務ヲ監督シ且延滞ナク賦課ノ事務ヲ落着セシムルコトニ注意スヘシ又委員長ハ郡内委員ノ議決ニ對スル故障及ヒ其委員長ノ控訴ヲ受ケ縣内ノ委員ヲ召集シ其



議決ヲ施行スヘシ

第二十六條 委員ハ郡内委員ノ議決ニ對スル故障及ヒ其委員長ノ控訴ヲ裁定スヘシ控訴ヲ裁定スルニハ郡内委員ト同一ノ權アリ  
 納稅者ノ故障ヲ裁定スルニハ先ツ第二十三條ニ因リ勸解ヲ爲シテ其當否ヲ決スヘシ然ル後故障申立人ノ財産及ヒ收入上ノ關係ヲ調査スヘク爲メニ證人(場合ニ因テハ相當ノ裁判所ニ於テ誓約ヲ爲サシメテ訊問スルコアリ)及ヒ故障申立人ニ財産及ヒ收入上ニ係ル問題ヲ出シ又ハ本人所有ノ書類土地貸付條約書負債證商業簿等ヲ差出サシムルコヲ得一定ノ期限内ニ答辨ヲ爲サ、ルカ又ハ書類ヲ差出サ、ルルキ又委員ニ於テ故障ノ當否ヲ決スル證憑ナキルハ誓約ノ代リニ故障申立人ノ收入ニ付キ辨明ヲ爲サシムルコヲ得此場

合ニ於テハ其辨明ヲ爲スヘキ命令書ニハ辨明式且八日以上ノ期限ヲ定メ辨明ヲ爲スヘク若シ之ヲ爲サ、ルルキハ故障ノ理由ナシトシ之ヲ却下スヘキコヲ記スヘシ

委員ノ裁定ニ對シテハ控訴ヲ爲スコヲ得ス  
 其他委員ハ郡内委員ノ確定シタル明細書ヲ檢査シ其意見ヲ記録シテ翌年課稅ノ片之ヲ酌量セシムヘシ

委員ノ議決書ハ郡内委員ノ規則ニ從フヘシ

第二十七條 納稅者ノ財産及ヒ收入ヲ確定シ又納稅者ノ故障ヲ裁定スルニハ收入ノ異ナルニ因リ二十八二十九三十條ノ規則ニ從フヘシ

第二十八條 土地ノ收入ハ納稅者所有地又ハ其他ノ權利ニ因テ土地



ヨリ得ヘキ収入ヲ含蓄ス

貸付地ノ収入ハ其時ノ貸付料ヲ計算スヘシト雖モ借受人ヨリ物件等ヲ完納スヘキ義務アルモ其義務及ヒ貸付人ニテ使用スルモ其使用權ヲ合算シ貸付人ニ存スル義務ハ之ヲ除去スヘシ

貸付サル土地ノ収入ヲ計算スルニハ其土地所有者ノ農業ヨリ得タル三年間ノ純益ヲ通算スヘシ

郡内ノ製造場(焼酎麥酒製造場水車煉化石製造場等)ノ所屬地ノ收

入ニ計算セサル物及ヒ醫師石盤石灰白土坑金銀分拆場ハ三年ノ

純益ニ因テ其収入ヲ算スヘシ

所有者ノ住居スルカ又ハ其他自己ノ用ニ供スル土地ノ収入ハ地方ノ貸家賃ニ因テ之ヲ算スヘシ

土地附着ノ義務租税及ヒ土地書入負債其他ノ負債ノ利子ハ之ヲ扣除スヘシト雖モ官署ノ求メニ因テハ債主ノ氏名住所及ヒ證書ノ月日ヲ證明スヘシ

第二十九條 資本金ノ収入ハ納税者ノ負債者政府政府ノ銀行公立會社株券會社外國政府等ニ對スル資産權ヨリ生スル利子ヨリ成ルヘシ又年金其他ノ契約、證書ヨリ得ル貨幣物件其有價物ノ収入モ亦資本金ノ収入トス

利子年賦金ハ公正證又ハ私證ノ請求權ヨリ成ル資本金ノ収入ナリトス

利子又ハ年賦金ノ高ニ不同アルカ又ハ株券會社ノ純益分配ニ於ケル如ク毎年平等ナラサルモ前年ノ排高ヲ收入ト看做スヘシ此收

分等税及分等收入税法



入ヨリ扣除スヘキ利子ハ第二十八條ノ末項ニ從フヘシ

一般營業上ノ資産權負債ハ第三十條ノ收入ヲ確定スルルキ之ヲ酌量スヘシ故ニ本條ニ之ヲ掲ケス

第三十條 第三種ノ收入ハ營業借地借家其他利益ヲ得ル事業例ヘハ政府團結ノ官吏醫師代言人著述者等ノ收入及ヒ退隱料休職料等凡テ動産不動産ノ年賦金ト看做スヘカラサル繼續スル收入ヲ含蓄スヘキモノニシテ左ノ箇條ニ從フヘシ

營業借地借家等ノ利益ハ三年間繼續シタル平均高ニ因テ計算スヘシ是等ノ支出トスヘキモノハ建築物器具ノ費耗ノ外ニ仍ホ舊來ノ如ク營業等ヲ繼續セシムル費用ナリトス故ニ納稅者及ヒ家屬ノ活計又ハ營業ヲ更替改良スル資本ヲ含蓄セス

一定ノ收入ハ其全額ヲ計算スヘシ法律上ニ因リ退隱料寡婦救助金ヲ出金スヘキルハ俸給又ハ退隱料ヨリ其金額ヲ扣除スヘシ

職務上收入ニ職務費用ノ償金ヲ含蓄スルルキハ其金額ヲ扣除スヘシ然レモ職務上ノ費用ノ償金ト爲ルヘキ俸給高ハ之ヲ扣除スヘシ負債ノ利子ヲ扣除スルニハ第二十八條ノ末項ニ從フヘシ

第三十一條 國內課稅ノ事務ハ大藏卿ニテ之ヲ總轄シ又縣内委員及ヒ委員長ニ對スル故障ヲ裁定スヘシ

第三十二條 課稅評定ニ加ハリタル委員長及ヒ其他ノ官吏ハ職務上ノ誓約ニ因リ其事務ヨリ知得タル財産收入上ノ關係ヲ他ニ漏泄スヘカラス委員ハ委員長ニ對シ握手ノ式ヲ以テ他ニ漏泄セサルコトヲ誓フヘシ



第三十三條 故障ヲ裁定スル爲メ官署ヨリ辨明ヲ求メタルト故サラ  
ニ自己ノ收入ヲ秘スルカ又ハ其高ヲ減シタル辨明ヲ爲スモノハ延  
納シタルカ又ハ延納スヘキ一年ノ税額四倍ノ罰金ニ處スヘシ  
其裁判ハ裁判所ニ於テ爲スヘシ但納税者自カラ延納税年額四倍ノ  
罰金及ヒ其他ノ費用ヲ完納スヘシト述ヘタルトハ格別ナリ如此郡  
長又ハ團結長官ニ陳述シタル効力ハ其金額ヲ完納セサル場合ニ於  
テ裁判判決ト同シ

第三十四條 課税ノ費用ハ政府出納局ニ於テ擔當スヘシ然レモ故障  
ヲ申述ヘタルカ爲メ調査ノ上納税者ノ陳述正當ナラサルトハ其調  
査費用ヲ負擔スヘシ委員ハ別ニ規則ヲ發スルマテ千八百三十六年  
四月廿五日ノ費用規則第三條ニ因リ旅費日當ヲ受クヘシ

第三十五條 租税ハ毎月最初八日間ニ租税官署ニテ定メタル受領所  
ニ先納スヘシ納税者ハ一時ニ一年内ノ金額ヲ納ムルモ勝手タルヘ  
シ  
租税取立手費料ハ又筆墨雜形等ニモ充ツヘキモノニシテ大藏卿ヨ  
リ規則ヲ發シテ之ヲ定ムヘシト雖モ取立タル租税百分ノ三ヲ越ニ  
ヘカラス

第三十六條 郡内委員ノ賦課シタル税額ハ故障ニ因テ之ヲ延納スヘ  
カラス必ス一定ノ期日ニ完納スヘシト雖モ他日過分ノ税額ヲ還付  
スルハ格別ナリトス  
俸給接對費休職料退隱料ノ分等收入税ハ之ヲ仕拂フヘキ出納局ニ  
於テ扣除シテ租税受領所ニ送付スルコトヲ得一年内ニ收入ノ出入ア  
分等税及分等收入税法



ルトモ之レニ因テ賦課シタル税額ヲ減スルコトナシ然レモ收入ノ減シタル爲メ總收入四分ノ一以上ノ減額ヲ生シタルコトヲ證明シ得ルハ賦課税ノ減額ヲ求ムルコトヲ得所有者ノ死去又ハ其他ノ事由ニ因リ全ク收入ヲ失フタルハ全ク賦課税ヲ免スヘシ但何レノ場合ニ於ケルモ減税ヲ求ムルカ又ハ全ク收入ヲ失ヒタル月ヲ合シ己ニ完納期限ノ滿タル税額ハ之ヲ完納スヘシ

第三十七條 千八百四十年六月十八日ノ租税期滿得免規則ハ分等收入税ニモ亦適用スヘシ但此規則ニ於テ別ニ定メタルモノハ格別ナリ  
第三十八條 此規則ヲ施行スル爲メ必用ナル布達規則ハ大藏卿ヨリ發スヘシ

附録

穀肉税ヲ取立ル郷ノ名稱

「プロイセン」州内

- 一「キヨ―ニフスベルヒ」
- 二「メ―メル」
- 三「ピルラウ」
- 四「チルシツト」
- 五「ダンチヒ」
- 六「エルビンダ」
- 七「マリ―ンブルヒ」
- 八「グラウデンツ」城塞ヲ合メ

分等税及分等收入税法



九「メリーンウエルデル」  
十「トルン」

「ポーゼン」州内

- 十一「ポーゼン」
- 十二「リツサ」
- 十三「ラウチユ」
- 十四「フラウスタット」
- 十五「プロムベルヒ」
- 十六「クロトシーン」
- 十七「ケンペン」
- 十八「グ子ーゼン」

十九「イノウラ、グラーツ」

二十「ヲ、ストロヲ」

二十一「グレーツ」

二十二「ツアボロヲ」

「ブランデンブルヒ」州内

二十三「伯林」

二十四「シヤロツテンブルヒ」

二十五「ポツダム」

二十六「ブランデンブルヒ」

二十七「プレントロウ」

二十八「スパンドー」

分等税及分等收入税法



- 二十九「ノイルピーン」
- 三十「ウリーチエン」
- 三十一「ラテノウ」
- 三十二「シユウエード」
- 三十三「ウイットストック」
- 三十四「フランクフルト」
- 三十五「ランズベルヒ」㊦㊧㊨
- 三十六「キユストリン」
- 三十七「マトブース」
- 三十八「キヨ―ニフスベルヒ」㊩㊪ノイマルク」
- 三十九「プロツセン」

四十「グーベン」

「ボンメルン」州内

- 四十一「ステチーシ」
- 四十二「アルトダム」
- 四十三「スタルガルド」
- 四十四「アレクラム」
- 四十五「デミーシ」
- 四十六「ユルベルヒ」
- 四十七「キヨスリーシ」
- 四十八「ストルペ」
- 四十九「ストラールズンド」

分等税及分等收入税法



五十「グライフスワルド」

「シュレーシエン」州内

五十一「プレスラウ」

五十二「ブリーグ」

五十三「ヨールス」

五十四「グロースグロガ」

五十五「リーグニツ」

五十六「ギルリツ」

五十七「サーガン」

五十八「ナイゼ」

五十九「ラチポール」

六十「ノイスタット」

六十一「ヲツベルン」

六十二「シュワイドニツ」

六十三「グラーツ」

六十四「ヒルシュベルヒ」

六十五「ヤウエル」

六十六「フランケンスタイン」

「サクソン」州内

六十七「マクデブルヒ」

六十八「ハルレ」

六十九「ウイテンベルヒ」

分等税及分等收入税法



七十「トルガツ」

七十一「メルセブルヒ」

七十二「ナウムブルヒ」

七十三「ツアイツ」

七十四「ワイセンベルス」

「ライン」河州内

七十五「キヨルン」 「ドイツ」ヲ合ス

七十六「ポーン」

七十七「デユセルドルフ」

七十八「ウエーセル」

七十九「クレートベ」

八十「コブレンツ」 「エーレンブライトスタイン」ヲ合ス

八十一「トリエル」

八十二「ザールプイ」

八十三「アーヘン」 「ブルチャイド」ヲ合ス

千八百五十一年五月一日ノ分等税及ヒ分等收入税改正規則千八百七  
十三年五  
月廿五  
日發

第一章 千八百五十一年五月一日ノ分等税及ヒ分等收入税規則第

五條第六條第九條第十條第十三條第十四條第二十條第二十四條

ヲ廢シ左ノ條ヤヲ以テ之レニ換ヘタリ

第五條 分等税ハ穀肉税ヲ課セサル地方ニ於テ一年ノ收入千「タ」

レル以下ノ人口ニ課スヘシ

分等税及分等收入税法



分等税ヲ免スヘキモノハ左ノ如シ

- 一 一年ノ收入百四十「ターレル」ニ至ラサル者(第七條五項)
- 二 滿十六歳ニ至ラサル者但一級ニ屬スル者ニ限ル(第七條)
- 三 陸海軍ノ平時人員ニ屬スル下士兵卒及ヒ其家屬但自己又ハ其家屬營業農業ヲ營ムカ又ハ所有地資本金ヨリ百四十「ターレル」以上ノ收入ヲ得サル者ニ限ル
- 四 非職歸休ノ下士兵卒及ヒ其家屬戰時ニ於テ召集セラレタルカ又ハ自ラ兵役ニ加ハリタル下士兵卒及ヒ其家屬ハ現役中
- 五 陸海軍士官軍醫軍屬ハ出陣中又ハ出陣セサル歩兵大砲隊出陣スヘキ軍隊ノ補缺兵又ハ戰端ヲ開キタル城塞服役中
- 六 未タ一年間内國ノ同地方ニ滞在セサル外國人但營業ノ爲メ内

國ニ滞在スル者ハ此限ニ在ラス

- 七 鐵製十字架ノ所持人及ヒ千八百七十年七月十九日ノ布告ニ因リ此勳章ヲ得タル者及ヒ一等二等ノ從軍徽章所持人其家屬ノ最初二級ニ屬スル者(第七條)

- 八 特別ノ勳章ヲ受ケサルモ普魯西國民又ハ當時未タ普國ニ合併セサル地方住民トシテ同盟國又ハ其他ノ軍隊ニ加入シテ千八百六年ヨリ千八百十五年マテノ戰爭ニ加ハリタル者及ヒ其家屬ノ最初二級ニ屬スル者(第七條)

第六條 分等税一年ノ收入高ハ其新加入ヲ除キ千百万「ターレル」ナリトス此定額ヲ變スルニハ必ス法律ヲ以テ爲スヘシ  
 其賦課ハ第七條ノ等級ニ從フヘシ分等税ヲ賦課スルニ因リ一年ノ

分等税及分等收入税法



収入高ニ増減アルハ其定額ニ増減スヘシ

此場合ニ於テ大藏卿ハ毎年三月一日マテニ賦課ノ結果及ヒ已ニ賦

課シタル年額ノ「ターレル」ニ付キ増減シテ定額ニ應セシムヘキ

「シルベルグロ―セン」ノ高ヲ公告スヘシ但六「フエンニヒ」以下ノ少

數ハ之ヲ除キ以上ノ零數ハ「グロ―セン」ニ算入スヘシ

「フエンニヒ」ヲ平均スルカ又ハ故障及ヒ控訴ニ因テ生シタル定額

ノ増減ハ本條四項ニ因リ「シルベルグロ―セン」ニ平均シテ翌年度

ノ税高ヨリ扣除増加スヘシ

一年度内ニ新タニ加入シタルハ改正税額ニ從フヘシ

第七條 分等税ハ十二級ニ分ツテ取立ツヘシ

其級ニ從テ課税スルニハ一年ノ收入ヲ評定スヘシ但納税者ノ資力

ヲ減スル特別ノ關係ハ(數人ノ子アルカ貧窮ナル家屬ヲ救助スヘキ義務アルカ長痾ナルカ又ハ資力ヲ減スヘキ負債及ヒ非常ノ災厄)之ヲ酌量スルヲ得

一級ニ屬スル者ハ全ク其税ヲ免スルヲ得一戸及ヒ一己人ノ納税者ノ一ケ年ノ税額ハ(第八條)左ノ如シ

一級ハ一年ノ收入百四十「ターレル」乃至二百二十「ターレル」ニシテ其税額ハ一「ターレル」ナリ

二級ハ二百二十一「ターレル」以上三百「ターレル」以下二「ターレル」

三級ハ三百一「ターレル」以上三百五十「ターレル」以下四「ターレル」

分等税及分等收入税法



四級ハ三百五十一「タール」以上四百「タール」以下五「タール」

五級ハ四百一「タール」以上四百五十「タール」以下六「タール」

六級ハ四百五十一「タール」以上五百「タール」以下八「タール」

七級ハ五百一「タール」以上五百五十「タール」以下七「タール」

八級ハ五百五十一「タール」以上六百「タール」以下十二「タール」

九級ハ六百一「タール」以上七百「タール」以下十四「タール」

十級ハ七百一「タール」以上八百「タール」以下十六「タール」

十一級ハ八百一「タール」以上九百「タール」以下二十「タール」

十二級ハ九百一「タール」以上千「タール」以下二十四「タール」

毎年ノ收入高ヲ評定スルニハ此規則第二十八條第二十九條第三十條ノ規則ニ從フヘシ

①第九條 團結及ヒ其他公ケノ組合ニ於テ分等稅額ニ從ヒ取立ツヘキ費用ハ別ニ免稅ノ事由ナケレハ一年ノ收入百四十「タール」ニ至ラサルモ公ケノ窮民救助ヲ受ケサル者ニ課スルコトヲ得其稅額ハ一戸又ハ一己人ノ納稅者ノ分稅額ヲ一年ニ付キ半「タール」ト假定

分等稅及分等收入稅法



シテ賦課スヘシ

⑨第九條 舊來ノ邑村規則ニ因リ毎年三「ターレル」乃至四「ターレル」ノ分等税ヲ完納スル者ニ非サレハ住民權團結ノ投票撰擧權ヲ有セシメサル者ハ撰擧權規則ヲ改正スルマテニ「ターレル」ノ分等税額ニ從フヘシ

四「ターレル」ヲ越ユル分等税ヲ完納スル者ニ非サレハ撰擧權ヲ有セシメサル地方規則ハ千八百七十四年一月一日ヨリ其効力ヲ失フヘシ

舊來ノ團結規則ニ因リ以上ノ地方規則ヲ發スル權ヲ有スル地方ニ於テハ新タニ地方規則ヲ發スルルニ「ターレル」乃至八「ターレル」ノ税額ヲ以テ撰擧權ヲ定ムルコトヲ得

舊來穀肉税ヲ課スル東州内ノ邑ニ於テハ千八百五十三年五月三十日ノ邑規則第五條四⑤ノ收入税ヲ住民權ノ要件トシテ仍ホ保存スヘキ決議ヲ爲スコトヲ得但穀肉税存廢ニ關係スルコトナシ

第十條 ①第七條ノ等級ニ於ケル評定ハ團結長ヲ會長ト爲シ團結會(團結議員會)ヨリ撰擧シタル委員ニ於テ爲スヘシ其撰擧ニ於テハ諸納税者ヲ委員ニ加ハラシムルコトニ注意スヘシ大ナル邑ニ於テハ數箇ノ委員ヲ設ケ且團結長ヲ會長ト爲サシテ團結會ニ於テ撰擧シタル委員一名ヲ會長トスルコトヲ得

團結長官ハ納税者ノ所有財産營業其他收入上ノ關係及ヒ特ニ資力ヲ減スヘキ活計ヲ調査スル等凡テ評定シ易カラシムル證憑ヲ集取スヘシ但家事ニ立入ルヘカラス

分等税及分等收入税法



委員ハ現在ノ證憑ニ因テ長ノ意見ヲ検査スヘシト雖モ濫リニ納稅者ノ財産及ヒ收入ニ立入ルヘカラス  
検査終リタル後委員ハ其調査又ハ其他知得タル關係ニ因リ所屬ノ等級ヲ定ムヘシ

評定ノ事務ニ加ハリタル委員長及ヒ其他ノ官吏ハ職務上ノ誓約ニ因テ其事務ヨリ知得タル財産收入ヲ他ニ漏洩スヘカラス委員ハ委員長ニ對シ握手ノ式ヲ以テ秘密ノ誓約ヲ爲スヘシ其評定ハ先ツ郡長ニ於テ之ヲ検査シ(カライスハウプトマン郷ニ於テハ郷長)縣廳ニテ(大藏局)之ヲ確定スヘシ  
所屬等級ヲ確定スルニ當リ委員ニ於テ決シタルヨリ高キ級ニ屬セシメントスルトキ只タ校合ニ止ルルハ直ニ之ニ屬セシムルヲ得

レモ其他ノ場合ニ於テハ先ツ委員ノ意見ヲ聞クヘシ

⑩團結長官ハ郷ニ於テハ郡長ノ監督ヲ受ケ一年度ノ納稅者氏名簿及ヒ出入簿ヲ作ルヘシ

⑪租稅ハ租稅取立人ヲシテ之ヲ取立テシムヘシ

⑫取立法ハ地方ノ情況ニ因テ別ニ規則ヲ發シ之ヲ定ムヘシ  
租稅ノ賦課取立法ノ規則ニ適スルヤ否ハ縣廳(大藏局)ニテ監督スヘシ

第十三條 ①租稅簿ノ公告ハ毎年ノ初メニ爲スヘシ

②公告シタル日ハ毎月ノ始八日內ニ其稅額ヲ先納スヘシ但一時ニ一年內ノ金額ヲ納ムルモ勝手タルヘシ

租稅ヲ賦課シタル後非常ノ災厄ニ遭ヒ資力ヲ減シタル日ハ委員

分等稅及分等收入稅法



ノ申立ニ因リ其資力相當ノ稅額ニ減センカ爲メ縣廳ハ其年額ノ半額ニ至ル免稅ヲ爲スコヲ得

①延納者ハ租稅取立人ヨリ三日内ニ完納スヘキ催促ヲ受ケ仍ホ完納セサルハ之ヲ執行スヘシ

②毎月ノ終五日前迄ニハ取立タル租稅及ヒ已ムヲ得サル不足及ヒ殘金ノ證書ヲ租稅ヲ受取ルヘキ出納局ニ引渡スヘシ租稅取立人ノ爲メ其期限内ニ一定ノ引渡期日ヲ定ムルモ妨ケナシ

③租稅取立人ニ於テ直ニ不足又ハ執行ノ効ナキコトヲ證明シ能ハサルハ其實メニ任シ出納局ニ其稅額ヲ立替フヘシ

第十四條 ①評定ニ對スル故障ハ第十三條①ノ公告後又一年度内ニ賦課シタルハ其稅額ノ通知後三ヶ月ノ期滿失權期限内ニ郡長

ニ申立ヘシ

②租稅ハ故障ニ因テ延納スヘカラス他日一定ノ期日ニ完納シタル過分ノ稅額ヲ(第十三條②)還付スルハ勿論ナリ

③故障ハ郡會又郷ニ於テハ團結會ニ於テ撰擧シタル委員ノ意見ヲ聞キ縣廳ニテ裁定スヘシ縣廳ニテ委員ノ意見ニ從ハサルハ縣内委員ニテ裁定スヘシ(第二十四條)納稅者ノ故障ヲ裁定スルニハ故障委員及ヒ縣内委員ニテ故障申立人ノ財産及ヒ收入ヲ調査シ故障申立人ニ財産收入ニ係ル訊問ヲ爲シ又所有ノ文書貸付條約借用證商業簿等ヲ差出サシムヘシ一定ノ期日内ニ答辨ヲ爲サ、ルカ又ハ文書等ヲ差出サ、ルハ故障ノ理由ヲ述フルコト能ハストシテ之ヲ却下スヘシ(其都度故障申立人ニ其旨ヲ通知ス分等稅及分等收入稅法



ヘシ)又故障委員及ヒ縣内委員ニ於テ故障ノ當否ヲ決スヘキ證  
憑ナキハ誓約ノ代リニ收入ニ係ル辨明ヲ爲サシムルコトヲ得此  
場合ニ於テハ辨明ヲ爲スヘキ命令書ニ辨明式及ヒ八日以上ノ期  
日ヲ定メ其期日後ニ其辨明ヲ爲サ、ルハ故障ノ理由ナシトシ  
テ之ヲ却下スヘキコトヲ掲クヘシ

③故障委員ノ意見ニ因リ縣廳ニテ爲シタル裁定及ヒ縣内委員ノ裁  
定ニ對シテハ其裁定書ヲ受領シタル後四週間ノ滿期失權期限内  
ニ故障申立人ヨリ郡長(カライスハツプトマン)ヲ經テ大藏省ニ  
控訴スルコトヲ得又縣廳ハ同期限内ニ縣内委員ノ裁定ニ對シ控訴  
ヲ爲スコトヲ得

④千八百四十年六月十八日ノ租稅期滿得免規則ハ分等稅ニモ亦適

用スヘシ但此規則ニ於テ別ニ定メタル者ハ格別ナリ

第二十條 一ヶ年分等收入稅高ハ左ノ如シ

- 一級ハ一年ノ收入千一「ターレル」以上千二百「ターレル」以下ニシテ  
三十「ターレル」ナリ
- 二級ハ千二百一「ターレル」以上千四百「ターレル」以下三十六「ター  
レル」
- 三級ハ千四百一「ターレル」以上千六百「ターレル」以下四十二「ター  
レル」
- 四級ハ千六百一「ターレル」以上千八百「ターレル」以下四十八「ター  
レル」
- 五級ハ千八百一「ターレル」以上二千「ターレル」以下五十四「ターレル」

分等稅及分等收入稅法



六級 八二千一「ターレル」以上二千四百「ターレル」以下六十「ターレル」

七級 八二千四百一「ターレル」以上二千八百「ターレル」以下七十二「ターレル」

八級 八二千八百一「ターレル」以上三千二百「ターレル」以下八十四「ターレル」

九級 八三千二百一「ターレル」以上三千六百「ターレル」以下九十六「ターレル」

十級 八三千六百一「ターレル」以上四千「ターレル」以下百八「ターレル」

十一級 八四千一「ターレル」以上四千八百「ターレル」以下百二十「ターレル」

一「ターレル」

十二級 八四千八百一「ターレル」以上五千六百「ターレル」以下百四十

四「ターレル」

十三級 八五千六百一「ターレル」以上六千四百「ターレル」以下百六十

八「ターレル」

十四級 八六千四百一「ターレル」以上七千二百「ターレル」以下百九十

二「ターレル」

十五級 八七千二百一「ターレル」以上八千四百「ターレル」以下二百十

六「ターレル」

十六級 八八千四百一「ターレル」以上九千六百「ターレル」以下二百五

十二「ターレル」

分等税及分等收入税法



十七級ハ九千六百「ターレル」以上二万八千「ターレル」以下二百八十「ターレル」

十八級ハ一万八千「ターレル」以上二万二千「ターレル」以下三百二十「ターレル」

十九級ハ一万二千「ターレル」以上二万四千「ターレル」以下三百六十「ターレル」

二十級ハ一万四千「ターレル」以上二万六千「ターレル」以下四百二十「ターレル」

二十一級ハ一万六千「ターレル」以上二万八千「ターレル」以下四百八十「ターレル」

二十二級ハ一万八千「ターレル」以上二万「ターレル」以下五百四十

「ターレル」

二十三級ハ二万「ターレル」以上二万四千「ターレル」以下六百「ターレル」

二十四級ハ二万四千「ターレル」以上二万八千「ターレル」以下七百二十「ターレル」

二十五級ハ二万八千「ターレル」以上三万二千「ターレル」以下八百四十「ターレル」

二十六級ハ三万二千「ターレル」以上三万六千「ターレル」以下九百六十「ターレル」

二十七級ハ三万六千「ターレル」以上四万「ターレル」以下千八十「ターレル」



二十八級 八四万「ターレル」以上四万八千「ターレル」以下千二百「ターレル」

二十九級 八四万八千「ターレル」以上五万六千「ターレル」以下千四百四十「ターレル」

三十級 八五万六千「ターレル」以上六万八千「ターレル」以下千六百八十「ターレル」

三十一級 八六万八千「ターレル」以上八万「ターレル」以下二千四百「ターレル」

三十二級 八八万「ターレル」以上十万「ターレル」以千二千四百「ターレル」

三十三級 八十万「ターレル」以上十二万「ターレル」以下三千「ターレル」

「ターレル」

三十四級 八十二万「ターレル」以上十四万「ターレル」以下三千六百「ターレル」

三十五級 八十四万「ターレル」以上十六万「ターレル」以下四千二百「ターレル」

三十六級 八十六万「ターレル」以上十八万「ターレル」以下四千八百「ターレル」

三十七級 八十八万「ターレル」以上二十万「ターレル」以下五千四百「ターレル」

三十八級 八十万「ターレル」以上二十二万「ターレル」以下六千「ターレル」



三十九級ハ二十二万ニターレル以上二十四万ターレル以下六千六百ターレル

四十級ハ二十四万ニターレル以上二十六万ターレル以下七千二百ターレル

二万ターレル毎トニ六百ターレルヲ増加スヘシ

一級二級ノ分等收入税ヲ賦課スルニハ納税者ノ資力ヲ減スヘキ活計(多人數ノ子又ハ貧窮ナル家屬ヲ救助スヘキ義務長病又ハ資力ヲ減スヘキ負債及ヒ非常ノ災厄)ヲ酌量シ一等ヲ減スルコトヲ得但一級ニ屬スルルハ分等税十二級ノ税額(第六條第七條)ニ減スルコトヲ得

第二十四條 各縣ハノール州及ヒ都府伯林内ニハ大藏卿ノ命シ

タル主任者ヲ會長ト爲シ委員ヲ設クヘシ其人員三分ノ二ハ縣内ノ分等收入税納税者ヨリ三分ノ一ハ分等税納税者ヨリ州會ニ於テ三年ノ期限ヲ以テ撰擧スヘシ  
委員ノ員數ハ各縣ノ大小及ヒ人口ノ收入高ニ因リ大藏卿ニテ之ヲ定ムヘシ此委員ヲ設クルニモ亦諸納税者ノ加ハルコトニ注意スヘシ  
其當撰ヲ拒ミ得ル事由ハ第二十一條ニ從フヘシ  
縣内委員ノ撰擧ハ最初ハ次會ノ州會其撰擧期限ヲ終リタル後ハ其次會ノ州會ニ於テ爲スヘシ

第二章

陸海軍ノ士官軍醫軍屬ノ分等收入税ヲ完納スヘキモノハ出陣中又出陣セサル歩兵大砲隊出陣スヘキ軍隊ノ補缺兵又戰端ヲ開キタル

分等税及分等收入税法



城塞ノ服役中課税ノ并未タ受ケサル職業上ノ收入ニ應スル税額ニ付キ其收入百分ノ三ニ應スル税高ヲ免スヘシ現職ノ俸給ヲ以テ休職セシメタルカ又ハ退隱料ヲ給スル陸海軍ノ士官軍醫軍屬モ亦前項ノ制限ニ因リ其俸給又ハ退隱料ニ賦課シタル税額ノ免税ヲ求ムルコトヲ得

此規則ニ背キ千八百七十年及ヒ千八百七十一年ニ已上ノ者ヨリ完納シタル税額ハ大藏卿ヨリ之ヲ還付スヘシ

第三章

千八百五十一年五月一日ノ規則中此第一章第二章ニ抵觸スル箇條ハ之ヲ廢スヘシ

第四章

大藏卿ハ其意見ニ因リ毎月完納スヘキ直接税ニ付キ滿期ト爲リタル翌月翌々月ノ税額ヲ一時ニ取立ル權アリ則三月分ヲ一時ニ取立ルコト

第五章

第一章ヨリ第三章マテノ規則ハ千八百七十四年度ノ分等税及ヒ分等收入税ヲ賦課スルルヨリ之ヲ施行スヘシ

第四章ハ此規則ヲ頒布シタル日ヨリ効力ヲ有スヘシ此規則ヲ施行スル爲メ必用ナル規則布達ハ大藏卿ヨリ之ヲ發スヘシ

○同年同月日ニ發シタル穀肉税ヲ廢スル規則千八百七十三年五月廿五日

第一條 穀肉税ヲ課スル郷ニ於テハ千八百七十五年一月一日ヨリ穀肉税ヲ廢シテ分等税ヲ施行スヘシ

團結ノ決議ニ因テハ千八百七十四年一月一日ヲ改正期日ト爲スコ  
分等税及分等收入税法



ヲ得

六十六

第二條 肉税ハ舊來穀肉税ヲ課スル郷ニ於テ千八百七十五年一月一

日ヨリ團結税トシテ仍ホ之ヲ取立ルコトヲ得レトモ郷ノ會計ニ於テ之  
要シ且地方ノ情況ニ因テ之ヲ取立ルヲ相當ナリト認メタルトニ限  
ルヘシ肉税ニ係ル團結ノ議決之ヲ執行スル爲メノ地方肉税規則及  
ヒ肉税ヲ取立管理スヘキ爲メ郷ノ官署及ヒ官吏ノ設立ハ内務大藏  
兩卿ノ許可ヲ受クヘシ

團結ノ議決ハ三年毎ニ之ヲ改正スヘシ郷會及ヒ郷官一致シテ肉税  
ヲ廢セン議決ヲ爲シタルトハ之ヲ取立ルコトヲ得スライン河州ニ  
於テハ郷官ノ代リニ郷長タルヘシ

穀肉税ヲ課スル舊來ノ區域ヲ他ノ地方又ハ其一部ニ跨カリ之ヲ出

スコ能ハサル其地方ヨリ出ス肉税相當ノ償ヲ給スヘシ其高ハ双方  
協議シテ之ヲ定ムヘシト雖モ協議ヲ遂ケサルトハ内務大藏兩卿ニ  
テ之ヲ定ムヘシ但裁判ヲ經テ之ヲ確定スルハ格別ナリ

次會ノ下院ニ肉税ヲ取立ツヘキ郷ノ目錄ヲ差出スヘシ三年ヲ經タ  
ル後ハ團結肉税ヲ保存スヘキヤ否ヲ更ニ検査スヘシ検査ノ結果及  
ヒ之ニ係ル裁定ハ下院ニ報告スヘシ

第三條 舊來ノ肉税及ヒ團結附加税ノ増額ハ必ス法律ヲ以テ爲スヘ  
シ

舊來ノ税額ヲ減シ肉税ヲ免スヘキ肉類及ヒ其他減肉税規則ノ肉類  
運搬ヲ便利ナラシメ又ハ郷内官署ノ權限ヲ改正スルニハ地方肉税  
規則ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

分等税及分等收入税法

六十七



其他政府ノ肉税規則ハ千八百七十五年一月一日已後ト雖モ亦之ヲ適用スヘシ

第四條 肉税ヲ取立ル郡ノ求メニ因テハ大藏卿ノ定メタル費用ヲ出シ郷ノ計算ヲ以テ政府直接税ノ官署及ヒ官吏ニ肉税ノ取立及ヒ管理ヲ舊來ノ如ク委托スルコトヲ得

此場合ニ於ケル郷ノ官署ノ肉税ニ係ル權限ハ雙方協議シテ之ヲ定ムヘシ

第五條 千八百五十一年五月一日ノ分等税及ヒ分等收入税規則第六條ノ千百万ト定メタル分等税ノ定額ハ舊來ノ穀肉税ヲ課スル郷ニ分等税ヲ施行シタルニ因リ千四百万「ターレル」ニ増加スヘシ  
同規則第六條三四ノ増減(第七條)ハ納税者一般ニ施行スヘシ

千八百七十四年一月一日ヨリ穀肉税ヲ廢シタル郷ニ於テハ同規則第六條ノ定額ヲ増加セス且其増減ヲ酌量セスシテ千八百七十四年度ノ分等税ヲ取立ツヘシ

第六條 分等税ニ係ル縣廳ノ權利義務ハ伯林郷ニ於テハ伯林ノ直接税本局ニ委ヌヘシ

○千八百七十四年一月二日ノ千八百五十一年五月一日ノ規則第十五條ノ手数料ヲ増加スル規則

第一條 同規則第十五條ノ百分ノ四ノ手数料ヲ廢シ千八百七十四年一月一日ヨリハ取立タル分等税百分ノ六トス  
分等税ヲ取立ヘキ義務ナキ團結ニ於テハ課税ノ雜費トシテ同期日ヨリ取立タル税額百分ノ三ヲ政府ヨリ受クヘシ



第二條 此規則ハ大藏卿ニテ施行スヘシ

○千八百七十五年六月十六日ノ分等稅改正規則

第一章 千八百五十一年五月一日千八百七十三年五月廿五日ノ規則

第七條ノ三等四等ノ二十五「マルク」ハ九「マルク」十二「マルク」ニ減スヘシ

第二章 分等稅ヲ賦課スル爲メ縣廳ハ郡總代又總代ナキ地ニ於テハ

郡會ノ承諾ヲ得且關係者ノ意見ヲ聞キタル後近接スル村里ハ之ヲ

評定區ニ合シ近接セサル村里ハ五百以下ノ人口ヲ有スルキハ近傍

ノ團結ト合併スルコトヲ得

合併シタル評定區ノ人口ハ通常千二百人以下タルヘシ評定區ニハ

委員一組ヲ設クヘシ(同規則第十條)

委員長及ヒ同規則第十條①ノ義務ハ縣廳ヨリ村里長又ハ「アナム

トマン」又ハ郷長ニ命シテ擔任セシムヘシ

委員ノ人數ハ村里ノ人口ノ高ニ因テ之ヲ配當スヘシ但各村里ヨリ

各一名ヲ出スヘシ里ニ於テハ里長又ハ其代理人又ハ里長ヨリ命シ

タル評定區内ノ住民ヲ出スヘシ

里ヨリ委員一名以上ヲ出スヘキキハ里長ヨリ之ヲ命スヘシ

其他村里長ノ義務ハ從前ノ通りタルヘシ

第三章 同規則第十三條②ノ第二項ハ之ヲ廢シ左ノ規則ヲ施行スヘ

シ

課稅後收入ヲ失フカ又ハ非常ノ災厄ニ因テ資力ヲ減シタルキハ評

定委員ノ發議ニ因リ縣廳ハ相當ノ減稅ヲ爲スヘシ

分等稅及分等收入稅法



第四章 同規則第十四條①ノ三箇月ノ期滿失權期限ハ二ヶ月ニ減ス  
ヘシ

第五章 第一章第二章第四章ノ規則ハ千八百七十六年度ノ分等稅ヲ  
賦課スルルヨリ施行スヘシ第三章ハ此規則頒布ノルヨリ其効力ヲ  
得ヘシ

○千八百七十七年三月十二日ノ地稅分等稅分等收入稅ノ改正規則

第一章ハ地稅ニ係ル規則ナリ

第二章 千八百五十一年五月一日ト千八百七十三年五月廿五日ノ規  
則第六條四項五項ヲ廢シ左ノ規則ヲ用フヘシ

此場合ニ於テ大藏卿ハ毎年六月一日迄ニ課稅ノ結果及ヒ定額ニ應  
セシメンカ爲メ年額三百「フエン」ニヒ三「マルク」ニ付キ増減スヘキ

十二「フエン」ニヒ「ノ」數ヲ公告スヘシ但六「フエン」ニヒ以下ハ除去シ  
以上ハ十二「フエン」ニヒト定ムヘシ「フエン」ニヒ「ニ」平均スルカ又ハ  
故障控訴ニ因テ増減シタル金額ハ第四項ニ因リ十二「フエン」ニヒ  
ニ平均シテ翌年度ヨリ差引増加スヘシ

第三章 同規則第二十三條ノ三項ヲ廢シ左ノ規則ヲ施行スヘシ

各納稅者ニハ所屬等級及ヒ其稅額ヲ封書ヲ以テ通知スヘシ其書面  
ニハ二箇月ノ期滿失權期限內ニ委員長ニ故障ヲ申述ヘ且其理由ヲ  
述ヘンカ爲メ自己又ハ其信任者二名以上ヲ出シ書面ヲ以テスルカ  
又ハ對審ヲ以テスルカ又ハ他ノ證據ヲ以テ委員ニ課稅ノ過半ナル  
「フ」ヲ信セシメ得ル「フ」ヲ記スヘシ其裁定ハ評定委員ニテ爲スヘシト  
雖レ委員長ヨリ其議決ニ對シ控訴ヲ爲スルハ縣內委員ニテ裁定ス



評定委員ノ裁定ニ對シテハ其裁定書ヲ受ケタル後四週間ノ期滿失  
權期限内ニ委員長ヲ經テ縣内委員ニ故障ヲ申立ルコトヲ得(第二十  
六條)

第四章 同規則第三十六條ノ末項ヲ改正シテ三項ノ減稅ハ大藏卿ノ  
許可ヲ得テ收入ヲ失ヒタル翌月ヨリ之ヲ爲スコトヲ得セシメタリ

第五章 第二章第三章ハ千八百七十七年四月一日ヨリ千八百七十八  
年度ニ至ル年度ノ課稅ヨリ施行スヘシ

第一章第四章ハ千八百七十七年四月一日ヨリ効ヲ有スヘシ  
大藏卿ハ此規則ヲ施行スヘシ

○千八百五十一年五月一日及ヒ千八百七十三年五月廿五日ノ規則ノ

分等稅賦課法 千八百七十三年五月二十九日發ス

本年五月廿五日ノ法律全書第十六號ヲ以テ布告シタル法律ハ舊來  
ノ分等稅賦課法ヲ變シタルニ因リ千八百五十一年五月一日ノ賦課  
法ヲ用フルコト能ハサルニ因リ之ヲ廢シ左ノ附加法ヲ施行シタリ

第一條 分等稅ハ第十二條ニ因リ郡長ニ分等稅表ヲ差出スヘキ期日  
ヲ怠ラスシテ速カニ賦課スヘシ(第十二條附錄ヲ見合スヘシ)

第二條 人口調ハ租稅ヲ賦課スル事務ノ濫觴ニシテ團結長官ニ於テ  
之ヲ擔當シ課稅ノ基礎ト爲スヘシ故ニ分等稅表ニ人口ヲ確實ニ記  
載スルニ甚タ緊要ノコナリ

團結内ノ住民故ニ分等收入稅ヲ納ムヘキ者及ヒ課稅ノ時勞力ノ爲  
メ又ハ他ノ事由ニ因テ一時不在スル者及ヒ他ノ團結ニ轉住セント

分等稅及分等收入稅法



欲スルモ未タ轉住セサル者(傭人職工ノ手傳人等)モ附録第一ノ雜形ニ因リ作ルヘキ分等稅表ノ一ヨリ六マテノ部ニ記入スヘシ當時現在スル人口氏名簿等ニ因リ人口ヲ調査スルヲ能ハサルモハ精密ニ地方ノ人口ヲ調査スヘシ人口ヲ調査スルニハ住家ノアル土地所有者又ハ其代理人及ヒ雇主ニ命シ規則第十二條(此賦課法ニ於テ規則ト稱シ別ニ發行ノ年月ヲ掲ケサルモノハ千八百五十一年五月一日ノ分等稅分等收入稅規則ナリト了解スヘシ)ニ因テ町噺ニ人口ヲ申出ツヘキヲ諭達スヘシ

軍隊ノ免稅者(聯隊大隊中隊等)ハ各別ニ之ヲ掲ケス止タ總數ヲ記スヘシ

租稅ヲ納ムヘキ外國人(規則第五條)此賦課法ニ於テ規則ノ第五

條第六條第七條第九條第十條第十三條第十四條第二十條第二十四條ヲ引用シタルモノハ千八百七十三年五月廿五日ノ規則第一章ニ掲ケタル千八百五十一年五月一日ノ規則ニ相當スル條ナリト知ルヘシ千八百五十一年五月一日ノ廢セラレタル箇條ヲ掲ケタルモハ原規則ノ第五條第六條第七條第九條第十條第十三條第十四條第二十條第二十四條ト記セリ)ハ團結ノ住民ニ非サルモト雖モ亦之ヲ記スヘシ

舊來ノ分等稅簿ニ於ケル如ク人口ヲ其年額ニ因テ區別スルニ及ハス何トナレハ納稅義務ハ一般ニ滿十六歲ヲ以テ始マルモノニ非ス止タ最下級ノ者ニ限リ最下級ニ於ケルモ六十歲ヲ以テ其義務ヲ免カル可カラサレハナリ(規則第五條)



第三條 規則第七條ニ因レハ分等税ヲ賦課スルニ付キ原規則第七條第九條及ヒ千八百五十一年五月八日ノ賦課法第五條ノ等級及ヒ徵證ニ因ラスシテ止タ一年ノ收入ニ因ルヘキモノニシテ其收入ハ百四十「ターレル」以上千「ターレル」以下ニシテ之ヲ十二級ニ分ツヘシ但納税者ノ資力ヲ減スヘキ特別ノ活計則チ多人數ノ子アルカ又ハ貧窮ナル家屬ヲ救助スヘキ義務アルカ又ハ長痾ナルカ又ハ資力ヲ減スヘキ負債非常ノ災難ヲ酌量スヘキハ格別ナリ

第四條 一年ノ收入高ヲ計ルニハ規則第二十八條第二十九條第三十條ニ從フヘシ

其規則ニ因リ舊來ハ分等税ヲ賦課スルニ當リ租稅簿ニ記入シタル者ノ收入千「ターレル」以上ナルヲ以テ分等税ヲ課セス分等收入税

ヲ課スヘキ者ナルヤ否ヲ定ムル規則ナリシ(千八百五十一年五月八日ノ賦課法第五條ノ七一項二項)後來モ亦此法ニ從フヘシ

然ル後同規則ニ因リ其他ノ者ノ收入ヲ評定シテ同規則第七條ノ所屬ノ等級ヲ定ムヘシ然レモ舊來賦課スルモニ用ヒタル他ノ評定法ヲ用フヘカラス

評定法ヲ説明スルハ已ニ分等收入税ノ評定委員長タル郡長ニ於テ能ク了解スレモ仍ホ左ノ箇條ニ注目スヘシ

租稅ヲ賦課スルニハ租稅簿一ヨリ六マテノ部ニ掲ケタル者又ハ各戸ノ所有地資本金年賦金其他ノ利益營業利益アル事業ヨリ生スル一切ノ收入ニ因ルヘシ

勞力ヨリ生スル收入ヲ評定スルニハ繼續スル契約ヲ以テ其賃錢ヲ定

分等税及分等收入税法



メサレハ勞力ノ期限及ヒ賃錢ノ通價ニ從ヒ(又ハ契約ノ賃錢高)其  
他規則第二十八條ヨリ第三十條マテニ因テ左ノ條ヤヲ酌量スヘシ

- 一 正金ノ賃錢ソ外ニ物件ノ收入則住家組合又ハ其他利益アルル  
ハ之ヲ收入ニ計算スヘシ其價ハ地方ノ價ニ依ルヘシ
- 二 家屬(妻子)ニ於テ勞力ヲ爲スルハ其賃錢ヲ戶主ノ收入ニ算ス  
ヘシ

三 勞力者其家屬ノ活計又ハ家事ノ費用ニ給スル費用ハ收入ヨリ  
引去ルヘカラス

以上ノ規則ニ因リ收入ヲ評定スルニハ一年ノ收入百四十「タ  
レル」ニ滿ルヤ否ヲ精細ニ調査スヘシ一年ノ收入百四十「タ  
レル」以上ニ評定スヘキ者又ハ各戶ノ收入足ラサルカ爲メ分等稅ヲ

免スヘカラス

第五條 規則第七條ニ於テハ納稅者ノ資力ヲ減スヘキ特別ノ活計ニ  
因リ收入ノ評定高ヲ減セシメタリ但評定高ヲ減スルハ一般評定ノ  
例外ニシテ其都度詳細ニ其理由ヲ述フヘク則左ニ掲クル情況ノ一  
箇又ハ數箇ノアルコトヲ證明スヘシ

- ① 多人數子アルコト
- ② 貧窮ナル家屬ヲ救助スヘキ義務アルコト
- ③ 長病
- ④ 負債
- ⑤ 非常ノ災厄

一年ノ收入百四十「タレル」以上二百二十「タレル」以下(一級)ナ  
分等稅及分等收入稅法



ル者ニ以上ノ情況アルハ全ク其稅ヲ免スルコトヲ得

一年ノ收入二百二十一「ターレル」以上ナル者ニ在テハ以上ノ情況アルトモ全ク其稅ヲ免セスシテ止タ其最下級ニ評定スヘシ故ニ一年ノ收入二百二十一「ターレル」以上三百「ターレル」以下(二級)ノ者ニ在テハ一級以上減稅スルコトヲ得ス因テ上級ノ者ニ於ケルモ特別ノ情況アルニ非サレハ一級以上減稅スヘカラス

(イロハ)ノ場合ハ別ニ説明ヲ要セス(ニ)ノ場合ニ於テハ其負債ノ利子ヲ收入ヨリ扣除シタルヲ以テ已ニ其評定高ヲ減シタルモノナリ因テ負債ノ爲メ減稅スヘキハ其資力ヲ減シタルヤ否ヲ調査スヘシ(ホ)ノ場合ニ於ケルモ亦同シ

第六條 團結長官ハ租稅簿ニ記入シタル者ノ財産所有營業及ヒ其他

ノ收入(第四條)又資力ヲ減スヘキ特別ノ活計(第五條)ヲ調査スル等總テ評定ヲ爲シ易カラシムヘシ證據ヲ集取スヘシ但家事ニ立入ルヘカラス

調査ノ結果ハ團結長官ヨリ附錄第二雛形ノ明細書ニ記入スヘシ縣廳ハ其ノ見込ニ因テ雛形ヲ増補スルコトヲ得

明細書ノ二三ノ部ニハ各戸各人(他ノ戸ニ屬セス自リ戸ヲ有セリル者)ヲ記入シ一ノ部ニハ租稅簿ノ番號ヲ記スヘシ左ニ掲クル者ハ明細書ニ記入スヘカラス

①前年度ニ於テ已ニ分等收入稅ヲ賦課シタル者

②陸海軍ノ平時定員ニ屬スル下士兵卒ノ自己又ハ家屬ニテ營業農業土地資本金ヨリ生スル收入ヲ有セサル者收入アル者ハ百四十

分等稅及分等收入稅法



「ターレル」以下ト雖モ之ヲ記入スヘシ

以上明細書ニ掲ケタル者ノ收入ハ四ヨリ十七ニ掲ケ十八ニ總高

ヲ附記シ二十一ニ團結長官ノ見込ニ因リ評定シタル所屬等級ヲ

記入スヘシ十八ニ掲ケタル收入百四十「ターレル」以下ナルハ

二十一ニ記入スヘカラス其他ノ事由ニ因テ團結長官ニ於テ免稅

スヘシト認メタル者モ亦記入スヘカラスト雖モ二十二ニ於テ租

稅簿ノ九十又八十一ニ因テ免稅スヘシト記スヘシ

家屬ニ特別ノ收入アレハ之ヲ戸主ノ收入ニ計算シ其總高ヲ四ヨ

リ十八マテノ部ノ戸主ノ部ニ記入スヘシ

第七條 課稅ノ事務ヲ始ムルニハ團結會(團結議員會)ニ於テ毎年規

則第十條①ニヨリ第七條ノ等級ニ評定スヘキ事務ヲ主ル委員ヲ撰

舉スヘシ

三千人以下ノ人口ヲ有スル團結ニ於テハ三名六千人以下ノ團結ニ

在テハ六名一万人以下ノ團結ニ在テハ九名一萬一名以上ノ團結ニ

在テハ十二名ナリトス

委員ヲ撰舉スルニハ成ルヘク諸納稅者ヲ平等ニ加ハラシムルコニ

注意スヘシ

大ナル郷ニ於テハ數箇ノ委員ヲ設クルコトヲ得各委員ノ人員ハ以上

ノ數ニ因テ撰舉スヘシ

第八條 第二條ヨリ第七條マテノ事務ヲ終リタルハ團結長官ニテ

委員(第七條)ヲ召集シ握手ノ式ヲ以テ其事務ヨリ知得タル財產收

入ヲ他ニ漏泄セサルコトヲ誓約セシムヘシ

分等稅及分等收入稅法



委員ハ團結長官ヨリ明細書ニ掲ケタル結果及ヒ意見ヲ現在ノ證憑ニ因テ檢査シ場合ニ因テハ納稅者ノ收入及ヒ其他ノ關係ヲ調査スルコトヲ得レトモ家事ニ立入ルヘカラス

第九條 檢査終リタル後委員ハ免稅スヘキ者ヲ租稅簿ノ八ヨリ十一

マテノ部ニ記入スヘシ其記入ハ左ノ箇條ニ從テ爲スヘシ

一 規則第五條ノ④ニ因リ一年ノ收入百四十「タ」ニ滿タサル者ヲ免稅スヘキハ明カニ其經界ヲ掲クヘシ百四十「タ」レ「以上」ノ收入アルモノハ如何ナル情況アリトモ法律ニ定メタル事由(第二ヨリ第七迄)ナケレハ免稅スヘカラス

二 百四十「タ」レ「以上」二百二十「タ」レ「以下」ノ收入アル者ヲ規則第七條ノ特別ノ活計ニ因リ資力ヲ減シタルカ爲メ免稅スヘ

キハ第五條ノ説明ニ因ルヘシ

三 舊來滿十六歲ニ至ラサル者ヲ一級ニ免稅シタリト雖モ已後ハ

規則第五條ノ④ニ因リ一級ニ屬スル者ニ非サレハ免稅スヘカラス舊來一級④ノ人頭稅ヲ廢セン爲メ各戸毎ニ課稅スヘキ規則ヲ

酌量シ以上ノ例外ハ止タ租稅簿ニ掲ケタル各戸ニ屬セサル十六歲未滿ノ者ニ非サレハ之ヲ許スヘカラス然レモ一級已上ノ等級

ニ屬スルハ未タ滿十六歲ニ至ラサルモ免稅ヲ求ムルコトヲ得ス四 規則第五條④ニ因テ原規則第六條④ノ陸海軍平時定員ニ屬ス

ル下士兵卒ノ免稅ヲ存シタリ止タ此等ノ者ニ特ニ課稅スヘキ要件ヲ變シタルノミ舊來ハ農業營業ヲ拒ムルハ直ニ賦課シタルモ後來ハ農業營業又ハ土地資本金ヨリ百四十「タ」レ「以上」ノ收

分等稅及分等收入稅法



入ヲ得ルニ非サレハ課税スヘカラス

五 第四ニ掲ケタル軍人ニハ亦憲兵ノ下士兵卒及ヒ下士同等ノ軍人則城塞建築ノ圖引者又ハ城塞堤防建築家病院ノ監守者等ヲ含ムヘシ

六 原規則第六條①ノ外國人ノ免税及ヒ賦課ハ規則第五條①ニ其全文ヲ掲ケタリ

千八百七十年五月十三日ノ重税ヲ廢スル規則(獨逸法律全書百十九帖)ニ因テ普魯西人ニ非サル獨逸人ニ付キ此規則ヲ改正シタル者ハ千八百七十年十月八日ノ賦課法ニ從フヘシ

七 規則第五條①ニ於テハ原規則第六條①ノ鐵製十字架ノ所持人ノ免税ヲ千八百七十年七月十九日ノ布告ニ因テ之ヲ得タル者及

ヒ一等二等ノ從軍徽章所持人ニ及シタリ但一級二級ニ屬スル者ニ限ルヘシ

八 原規則第六條①ノ一級ニ屬スル六十歳ノ免税ハ之ヲ廢スヘシ故ニ滿六十歳ノ者一級ニ屬スルモ年齢ノミニテハ免税ノ限ニ在ラス

九 原規則第六條①ノ免税モ亦之ヲ廢ス但公ノ窮民救助ヲ受クルカ又公立ノ建築物ニ於テ公費ノ賄ヲ受クル者ハ一二ノ事由ニ因テ免税スヘシ

十 舊來ノ規則ニ因リ兩親ヲ離レタル生徒等ニ課税シタレト後來ハ亦同一ノ事由ニ因テ免税スヘシ

第十條 規則第五條及ヒ此賦課法第九條ニ因リ免税ヲ求ムルヲ能ハ分等税及分等收入税法



サル者ハ委員ニ於テ調査シタル證憑又其他知得タル情況ニ從テ所屬等級ヲ定ムヘシト雖レ一箇人ニ賦課スヘカラス其所屬等級ヲ定ムルニハ此賦課法第四條第五條ニ因ルヘシト雖モ仍ホ左ノ條ヤニ着目スヘシ

一 規則第七條ニ因レハ舊來ノ㊦ノ一級ノ如ク一己人ニ賦課スヘキ等級ナシ戸主モ亦後來ハ各級ニ評定スルコトヲ得

二 規則第二十條ニ分等收入税ヲ賦課スヘキ者ノ特別ノ活計ニ因リ分等税十二級ニ減税シ得ヘシト掲ケタレレ(規則第六條第七條)本人ハ分等收入税ノ納税者ニ屬シ且其收入千「タール」以上ナルヲ以テ分等税納税者ニ算入スヘカラス故ニ千「タール」以上ノ收入ヲ有スル者ヲ區分スヘキハ後來ニ於ケルモ亦緊要ナリ

又分等税ノ定額ヲ調査スルニモ其税額ヲ算入スヘカラス

三 收入ニ最高最下點ヲ定メテ各級ノ課税ニ餘地ヲ與ヘ其限内ニ於テ高ヲ調査セシメタリ

官吏ノ俸給退隱料等ノ如キ其收入ヲ詳細ニ評定シ得ル場合ニ於テ注意スヘキハ一級ノミハ百四十「タール」ヲ以テ始マリ其他ノ級ハ規則第七條ノ以上アル數ヲ以テ始ルト雖モ其收入二百二十「タール」ナレハ一級ニ評定シ三百「タール」ナレハ二級ニ評定スルノ類ナリ

第十一條 規則第六條ニ因レハ分等税ノ收入ハ一定ノ金額ニ確定シタルヲ以テ政府ノ出納局ニ於テハ各團結内ニ平等ニ評定スルモセサルモ更ニ關係ナシ各納税者又ハ全團結ニ評定シタル税額ノ規則

分等税及分等收入税法



ノ金額ニ不足スルハ其他ノ納税者ニ於テ其不足ヲ償フヘシ故ニ  
團結委員ハ評定ノ時規則ヲ遵奉シテ平等ニ賦課スルコトニ注意スヘ  
シ

如此平等ニ賦課スルニハ分等税表ノ前検査及ヒ確定ノ時以下ノ  
箇條ニ從フヘク特ニ納税者ノ爲メ全郡縣ニ平等ニ評定スヘキコト緊  
要ナリトス

第十二條 評定ヲ終リタルハ(第八條第九條第十條)租税簿ノ六ヨ  
リ二十五マテノ部ニ記入シ且團結長官ハ團結内ノ住民ヲ記入シタ  
ルコトヲ證シ評定委員ハ確實ニ免税及ヒ評定ヲ法律ニ因テ爲シタル  
コトヲ證スヘシ

然ル後團結長官ハ租税簿ニ通ニ明細書(第六條)ヲ添ヘ郡長(カラ  
イスハウプトマン)郷ニ於テハ郷長(以下ニ郡長ト記シタルモノハ  
ハ「ハノール州」ニ於テハ「カライスハウプトマン」郷ニ於テハ郷長  
ナリト了解スヘシ)ノ定メタル期日ニ差出スヘシ

第十三條 郡長ハ先ツ租税簿ニ記入シタル人口ヲ検査スヘシ之レカ  
爲メ租税簿ヲ前年度ノ租税簿出入簿最後ノ人口調書及ヒ其他職務  
上ノ報告書ト對照シ人口ニ付キ意見アルハ團結長官ヲ尋問シ又  
ハ實地検査ヲ爲ス可シ

然ル後郡長ハ租税簿ノ免税收入ノ明細納税者ノ特別ノ活計(第五  
條)及ヒ平等ニ評定シタルヤ否ヲ検査スヘシ文書ノ誤ハ直ニ之ヲ  
改正シ税額ノ高ニ付キ意見ヲ異ニスルハ速ニ評定委員ノ意見ヲ  
聞キ己レノ意見ヲ調書ニ作り之ヲ租税簿ノ附録ト爲スヘシ



郡内ノ租税簿ヲ検査シタル後郡長ハ郡内一般ニ課税ニ不權衡ナキ  
 ヤヲ検査シ且租税簿ノ正本ニ明細書評定調書委員ノ意見書及ヒ  
 前年度ノ租税簿出入簿附録第三ニ因テ作りタル郡ノ明細書ニ通其  
 説明書特ニ郡内課税ノ報告書ヲ合シテ縣廳(大藏局以下縣廳ト  
 揚ケタルモノハ「ハ」ノ一フル)州ニ於テハ大藏局ト了解スヘシ)ノ定  
 メタル期日ニ差出スヘシト雖モ該年度ノ十一月一日ヲ越ユヘカラ  
 ス此期日ノ延期ハ之ヲ許サス

第十四條 縣廳特ニ租税局ハ人口及ヒ免稅稅額郡内ノ一團結及ヒ總  
 團結ノ課税ノ平等ナルニ付キ前年度ノ租税簿明細書出入簿人口調  
 書土地家屋稅登記簿營業稅簿等ヲ參照シテ租税簿及ヒ明細書ヲ檢  
 査スヘシ文書ノ誤ハ直ニ之ヲ改正スヘシト雖モ減稅免稅ノ申立ハ

其理由アルニ非サレハ之ヲ許可スヘカラス  
 評定委員ノ定メタル等級ヨリ高キ級ニ轉スルニハ文書ノ改正ニ止  
 ルトハ直ニ之ヲ爲スコヲ得レモ其他ノ場合ニ於テハ先ツ評定委員  
 ノ意見ヲ聞キタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコヲ得ス但已ニ郡長ニ於  
 テ意見ヲ聞キタルトハ格別ナリ直ニ評定委員ヲ尋問シ之ヲ決スル  
 一能ハサルトハ翌年度マテ轉級ヲ延引スヘシ

租税簿ノ事柄及ヒ算用ヲ検査シ改正ヲ要シタルト之ヲ改正シタル  
 後縣廳ハ幾許高(數字ト「ABC」ト兩様ニ記スヘシ)ノ年額ヲ確定  
 シ千八百五十一年五月一日千八百七十三年五月廿六日ノ規則第六  
 條ニ因リ其全部及ヒ一部ノ増減ヲ爲スヘキハ格別ナリト附記シ  
 如此確定シタル各郡内ノ租税簿及ヒ明細書ニ郡ノ明細書一通ト



検査ノ調書及ヒ委員ノ意見書ヲ添ヘテ郡長ニ還付スヘシ  
縣内全郡ノ租稅簿ヲ検査シ終リタルハハノ一フル州ニ於ケルモ  
亦然リ

縣廳ハ現在ノ書類ニ因リ全部ニ課稅ノ不權衡ナキヤ否ヲ調査スヘ  
シ不權衡ナリト認メタルハ翌年度ニ其權衡ヲ得セシメンカ爲メ  
郡長ニ命スヘシ

全郡ノ明細書ニ因リ附錄第四ノ雛形ニ從テ作りタル縣ノ明細書ニ  
課稅ノ説明書ヲ添ヘ該年度十二月十五日マテニ之ヲ大藏卿ニ差出  
スヘシ此期日ハ延期スヘカラス

縣ノ明細書ハ規則第六條ニ因リ分等稅ノ定額ヲ増減スルキノ用ニ  
供スヘキモノナリ此明細書ノ計算上ノ確實ナルヲハ縣廳ニ於テ之

ヲ證スヘシ

第十五條 郡長ハ縣廳ノ確定シタル租稅簿及ヒ郡ノ明細書ニ因テ租  
稅簿ノ副本及ヒ郡明細書ノ原稿ヲ改正シ租稅簿ノ正本及ヒ明細書  
ヲ團結長官ニ郡ノ明細書(シユスイヒホルスタインハノ一フルウ  
エスハーレンヘツセヌナツサウライン河諸州ニ於テハ郡ノ明細書  
ノ公正ノ拔書)ヲ租稅局(郡出納局以上ノ諸州ニ於テハ租稅受取  
人)ニ送付スヘシ

第十六條 租稅簿ヲ受取リタル後團結長官ハ租稅簿ヲ納稅者ノ檢閱  
ニ供スヘキ場所期限ヲ公告スヘシ其檢閱ハ止タ租稅簿ニ限リ明細  
書ニ及ホスヘカラス明細書ヲ他人ニ檢閱セシムヘカラサルヲハ規  
則(第十條①五項)ニ掲ケタリ其期限ハ團結ノ大小ニ因リ十四日以  
分等稅及分等收入稅法



内ニ定ムルコトヲ得レド徒ニ之ヲ延期スルコトヲ禁ス

其他納稅者ハ團結長官ニ請求シテ自己ノ所屬級ノ稅額ノ拔書シ

ユレスイヒホルスタインハノーフルウスエストハーレンヘツセヌ

ナツサウライン河諸州ニ於テハ租稅切手ト稱セリヲ受クルコトヲ

得

舊來ノ方法ニ因リ同時ニ租稅取立簿ヲ作ルヘシ

第十七條 租稅簿ヲ公告シタル後ハ千八百五十一年五月一日ノ規則

第十三條及ヒ本年五月廿五日ノ規則第四章ニ因テ租稅ヲ取立ツヘ

シ取立方故障控訴及ヒ納稅者ノ出入處分ニ付テハ別ニ規則ヲ發ス

ヘシ

第十八條 大藏卿ニ於テ規則第六條ニ因リ定額ヲ平均セシメンカ爲

メ年額ノ一「ターレル」ニ付キ増減スヘキ「シルベルグロ―セン」ノ數

ヲ公告シタルト縣廳ハ之ニ因テ縣ノ明細書及ヒ全郡明細書ノ年額

ヲ改正シ郡ノ改正年額ヲ郡長ニ通知スヘシ又同時ニ分等稅十二級

ノ改正年額及ヒ月額ヲ通知スヘシ

然ル後郡長ハ各租稅簿ノ年額及ヒ郡明細書ノ原稿ヲ改正シ租稅簿

ノ改正年額ヲ團結長官ニ郡明細書ノ改正年額ヲ(シユレスイヒホ

ルスタインハノーフルウスエストハーレンヘツセヌナツサウライン

河諸州ニ於テハ郡明細書ノ公正ノ拔書)租稅局(郡出納局以上ノ諸

州ニ於テハ租稅受取人)ニ通知スヘシ又同時ニ分等稅十二級ノ改

正年額及ヒ月額ヲ通知スヘシ

其通知ニ因テ租稅取立簿ヲ改正スヘシ



第一雛形 何年會計年度何縣何郡

何團結ノ分等收入稅簿

團結内ノ住民ヲ確定ニ記入シタルコトヲ保ス

地方月日團結長官ノ手署

免稅課稅ヲ法律ニ因リ正實ニ爲シタルコトヲ證ス

地方月日 分等稅賦課委員署名幾許ターレル(數字及ヒ

「アベセ」ヲ以テ記スヘシ)ノ年額ヲ確定ス千八百五十一

年五月一日千八百七十三年五月廿五日ノ規則第六條ニ因

リ其全部及ヒ一部ヲ増減スヘキハ勿論ナリ

地方月日

縣廳直接稅課署名

一	番號
二	町名及ヒ番號
三	前年度租稅簿ノ番號
四	氏名
五	身分又ハ營業
六	一戶家屬又ハ一箇納稅者ノ員數
七	分等收入稅ヲ完納スヘキ者
八	一年ノ收入百四十ターレルニ滿タサル者規則第五條①
九	滿十六歲ニ至ラサル者但第一級ニ屬スルモノナルヘシ
十	規則第五條②
十一	軍人規則第五條③鐵製十字架所持人規則第五條④千八
十二	百六年ヨリ十五年マテノ戰爭ニ加ハリタル者規則第五
十三	條⑤

分等稅及分等收入稅法



者キ  
 百四十七タレ以上二百二十七タレ以下ノ收入アリ  
 ト雖モ特別ノ活計ノ爲メ資力ヲ減シタル者規則第七條  
 六ノ部ニ掲ケタル者ヨリ七ヨリ十一ニ至ル部ノ人員ヲ扣  
 除シタル殘數

十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九	二十
者	分	等	税	ノ	等	ノ	等	ノ
一	二	三	四	五	六	七	八	年
一タレ	二タレ	四タレ	五タレ	六タレ	八タレ	十タレ	十二タレ	レ

二十一	二十二	二十三	二十四	二十五	二十六
級	九	十	十一	十二	附記
額	十四タレ	十六タレ	二十タレ	二十四タレ	レ
レ	レ	レ	レ	レ	レ

第二雜形 何年ノ會計年度  
 何縣何郡

何團結分等稅簿ノ明細書

一	租稅簿ノ番號
二	氏名
三	身分及ヒ營業

分等稅及分等收入稅法



四	所有地ノ大小 <small>「ヘクトメートル」即「百メートル」ヲ以テ計算スヘシ</small>
五	地稅ノ年額
六	一年ノ貸付料
七	所有地ヨリ生スル收入ノ年額
八	資本金高
九	資本金ヨリ生スル收入ノ年額
十	何級ノ營業稅一年ノ高
十一	商業營業ヨリ生スル收入ノ年額
十二	借受ケタル土地ノ大小 <small>「ヘクトメートル」ヲ以テ計算スヘシ</small>
十三	土地借受料ノ年額
十四	借受ケタル土地ヨリ生スル收入ノ年額

十五	俸給接對費退隱料等ノ年額
十	雇人及 ヒ勞力 正金ノ年額
六	住居飲食物件其有價物ノ一年ノ價一年ノ合計 ノ收入
十七	義務及ヒ利子ノ年額
十八	收入ノ合計
十九	資力ヲ減スヘキ特別ノ活計
	一 多人數ノ子
	二 貧窮ナル家屬ヲ救助スヘキ義務
	三 長痾
	四 資力ヲ減スヘキ負債
	五 資力ヲ減スヘキ非常ノ災厄

分等稅及分等收入稅法



二十	前年度ノ等級
二十一	團結長官ノ見込ニ因テ評定シタル等級
二十二	附記

第三雛形何年ノ會計年度  
何郡内ノ分等税ノ明細書

一	番號
二	團結ノ名稱
三	最後人口調
四	分等税簿ノ六部
五	分等收入税ヲ納ムヘキ者
六	分等收入税ヲ納ムヘキ者

一年ノ收入百四十「ターレル」ニ滿タサル者規則第五條①

七	等	者	キ	ハ	ス	免	ヲ	税	等
八	分	者	キ	ハ	ス	免	ヲ	税	等
九	分	者	キ	ハ	ス	免	ヲ	税	等
十	分	者	キ	ハ	ス	免	ヲ	税	等
十一	分	者	キ	ハ	ス	免	ヲ	税	等
十二	分	者	キ	ハ	ス	免	ヲ	税	等
十三	分	者	キ	ハ	ス	免	ヲ	税	等
十四	分	者	キ	ハ	ス	免	ヲ	税	等

十六歳未滿ノ者但一等ニ屬スル者ニ限ル規則第五條②  
 軍人規則第五條③鐵製十字架ノ所持人規則第五條④千  
 八百六年ヨリ千八百十五年マテノ戦争ニ加ハリタル者  
 規則第五條⑤  
 百四十「ターレル」已上二百二十「ターレル」已下ノ收入ア  
 レトモ特別ノ活計ニ因リ資力ヲ減シタル者規則第七條  
 四部ヨリ五ヨリ九ニ至ル部ノ人員ヲ扣除シタル殘數

分等税及分等收入税法



二十五	二十	十九	十八	十七	十六	十五
二十	十九	十八	十七	十六	十五	十四
十九	十八	十七	十六	十五	十四	十三
十八	十七	十六	十五	十四	十三	十二
十七	十六	十五	十四	十三	十二	十一
十六	十五	十四	十三	十二	十一	十
十五	十四	十三	十二	十一	十	九
十四	十三	十二	十一	十	九	八
十三	十二	十一	十	九	八	七
十二	十一	十	九	八	七	六
十一	十	九	八	七	六	五
十	九	八	七	六	五	四
九	八	七	六	五	四	三
八	七	六	五	四	三	二
七	六	五	四	三	二	一
六	五	四	三	二	一	
五	四	三	二	一		
四	三	二	一			
三	二	一				
二	一					
一						

二十六 附記

第四雜形 何年ノ會計年度

縣内分等税ノ明細書

一	番號
二	郡ノ名稱
三	最後人口調
四	郡明細書ノ四部
五	分等收入税ヲ納ムヘキ者
六	一年ノ收入百四十「タ」レルニ滿タサル者規則第五條①
七	十六歳未滿ノ者但一等ニ屬スル者ニ限ル規則第五條②
八	軍人規則第五條③鐵製十字架ノ所持人規則第五條④千

分等税及分等收入税法



免 ス ヘ キ 者

八百六年ヨリ千八百十五年マテノ戦争ニ加ハリタル者  
規則第五條①

百四十「ターレル」已上二百二十「ターレル」已下ノ收入ア  
レトモ特別ノ活計ニ因リ資力ヲ減シタル者規則第七條  
四部ヨリ五ヨリ九ニ至ル部ノ人員ヲ扣除シタル殘數

九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六

分 等

一級 二級 三級 四級 五級 六級

分 等

一ターレル 二ターレル 四ターレル 五ターレル 六ターレル 八ターレル

十七	十八	十九	二十	二十一	二十二	二十三	二十四
七級	八級	九級	十級	十一級	十二級	分等税ノ總額	
年	額	額	額	額	額	附記	
十ターレル	十二ターレル	十四ターレル	十六ターレル	二十ターレル	二十四ターレル		

千八百五十一年五月一日及ヒ千八百七十三年五月廿五日ノ規則ノ分  
等税取立法及ヒ納税者ノ出入故障控訴法千八百七十三年十二月十二

分等税及分等收入税法



第一條 千八百五十一年五月一日及ヒ千八百七十三年五月廿五日ノ規則ノ分等税ヲ地方ニ因テ取立テ及ヒ之ヲ執行スル方法ハ舊來ノ通りタルヘシト雖モ特ニ以下ノ條々ニ注意スヘシ

一 毎月ノ始メ八日內又二ヶ月三ヶ月ヲ纏メ取立ルルハ取立テ月ノ最初八日內又取立月ノ最初八日後ニ期日ヲ定メタルルハ其期日內ニ租税ヲ完納セサル納税者ハ租税取立人ヨリ三日內ニ完納スヘキ催促ヲ爲スヘシ其期日內ニ完納セサルルハ執行スヘシ(規則第十三條②③)

二 已ニ取立タル租税已ムヲ得サル延納ノ明細書及ヒ殘額ハ毎月ノ末五日前ニ租税ヲ受取ルヘキ出納局ニ引渡スヘシ租税取立

人ノ爲メ其期日內ニ一定ノ引渡期日ヲ定ムルモ妨ケナシ(規則第十三條④)

三 租税取立人ニ於テ現ニ延納シタルコト又ハ執行ノ効ナキコトヲ證明スルコト能ハサルルハ其責ニ任シ出納局ニ之ヲ立替ヘシ(規則第十三條⑤)

四 毎月取立タル租税ハ引渡證ニ通ヲ以テ同時ニ取立手数料ヲ記シテ租税ヲ受取ルヘキ出納局ニ引渡スヘシ出納局ハ引渡證ナキ租税ヲ受クヘカラス引渡證一通ニハ受取ヲ記シテ租税取立人ニ還付スヘシ前年度ノ殘金ヲ引渡スニハ別ニ引渡證ヲ作ルヘシ

五 每半度ノ末ニハ團結長官(第十一條ノ地方ニ於テハ租税取立分等税及分等收入税法



人)ニテ附録④ノ雛形ニ因リ延納書ニ通ヲ作リ(脅迫法ヲ用フルモ仍ホ完納セサル税額ヲ記シタル書ナリ)其附屬書類ヲ添ヘテ郡長ニ差出スヘシ前半年ノ延納書ニハ完納セサルトノ確實ナル税額ノミヲ掲クヘシ後半年度ニ完納スヘキ税額ヲ記スヘカラス

延納書ニ記入シタル税額ノ四級ヨリ高級ノモノニ係ルキハ附記ノ部ニ其旨ヲ記スヘシ

延納者ヲ記入スルニハ分等税簿納税者加入簿又ハ租税計算簿ト同一ノ順序ヲ以テ爲スヘシ

六 郡長ハ(カライスハウプトマン)分等税ヲ取立ルニ付キ其規則ニ違ハサルト及ヒ租税取立人團結長官ノ事務ヲ監督スヘク特

ニ納税者ニ於テ完納期日ニ完納ヲ怠ラス爲メニ脅迫法ヲ用ヒサルトニ注意スヘシ脅迫法ヲ用ヒサレハ租税ヲ取立ツルト能ハサル團結ニ於テ其脅迫法ヲ施行スルト能ハサルキハ相當ノ助勢ヲ爲シ且其執行ヲ監督スヘシ

七 二三四(規則第十三條②③)ノ規則ニ違フタル租税取立人ニ對シテハ直チニ相當ノ處分ヲ爲スヘシ

八 半年度ノ延納書ハ郡長(カライスハウプトマン)ニ於テ検査スヘシ特ニ左ノ箇條ニ注意スヘシ

延納税額ヲ完納期日ニ催促シタルヤ脅迫法ヲ用ヒタルヤ其他租税取立法(勞力賃及ヒ傭料等ヲ差押フルト)ヲ用フルモ効ナカリシヤ及ヒ二倍ノ税額ヲ延納額トシテ計算シタルヤ否ヲ檢

分等税及分等收入税法



查スヘシ

検査ヲ爲シタルハ其旨ヲ縣ノ明細書ニ證スヘシ

検査ニ因リ取立法ノ規則ニ背キタリト認メタルハ其箇條ニ付キ團結長官及ヒ租税受取人ヲシテ辨明セシメ又場合ニ因テハ實地検査ヲ爲スヘシ

検査シタル延納書一通ハ其附屬書類及ヒ縣ノ明細書ヲ添ヘテ郡長ヨリ該年度ノ八月ノ初又ハ翌年度ノ一月ノ初ニ縣廳(ハノール州ニ於テハ大藏局)ニ差出スヘシ

第二條

團結長官ハ一年内ノ分等税納税者ノ出入ヲ監督シ出入アル

ハ直ニ租税取立人ニ通知スヘシ租税取立人ハ其通知ニ因テ租税取立簿ニ先ツ附記スヘシ租税取立人ニ於テ先キニ出入ヲ知りタル

ハ直ニ團結長官ニ通知スヘシ

租税取立人ニ加入ヲ通知セサルカ又ハ其通知ヲ怠ルニ因テ生シタル延納ハ團結長官ニ於テ其責ニ任スヘシ

第三條

一年内ノ加入ハ左ノ場合ニ因テ生スヘシ

一 舊來税ヲ賦課シタル戸ヨリ離レタル者ニ税ヲ賦課スヘキハ

① 戸ヲ解キタルハ

② 獨立シテ戸ヲ立タルカ又ハ營業ヲ爲スハ(規則第八條④)

③ 他人ニ傭ハル、ハ(規則第八條⑤)

二 一級ニ屬スル十六歳未滿ノ者滿十六歳ニ至リタルハ(規則第五條④)

三 他ノ團結ヨリ轉住シタルハ

分等税及分等收入税法



①穀肉税ヲ科スル地方ヨリ轉住シタルキ(規則第二條①第十一條但止タ千八百七十四年ニ生スヘキ場合ナリ)

②分等税ヲ科スル地方ヨリ轉住シタルキ(規則第十一條)

四 軍務ヲ離レタルキ(規則第五條①②)

五 凱戦又ハ戰爭ノ止ミタルキ(規則第五條③)

六 外國ヨリ轉住スルキ及ヒ外國人ニシテ一年以上内國ニ滞在ス

ルキ及ヒ營業ノ爲メ内國ニ滞在スルキ(規則第五條④)

以上ノ加入シタル者ノ理由ヲ證明センカ爲メ第九條ニ掲ケタル加入簿(⑤雛形)ノ加入ノ理由ノ部ニ其理由ヲ掲クヘシ

特ニ左ノ箇條ヲ記入スヘシ

一 ①②③④ノ場合ニ於テハ變更シタル期日及ヒ舊來租税ヲ賦課シ

タル戸ノ租税番號(規則新タニ租税ヲ課スル者ノ離レタル戸ノ番號ナリ)

二ノ場合ニ於テハ誕生日租税ヲ賦課スヘキ者ヲ記入シタル租税番號

三①ノ場合ニ於テハ新住居地ニ轉シタル期日及ヒ舊住居地但轉住證ヲ添フヘシ

三②ノ場合ニ於テハ三①ノ箇條ヲ記スル外ニ轉住證ニ因リ舊住居地ニ於テ租税ヲ完納シタル年月及ヒ月額

此同一ノ税額ヲ新住居地ニ於テ取立ツヘシ

四五ノ場合ニ於テハ軍務ヲ離レタル期日及ヒ凱陣又ハ戰爭ノ止ミタル期日

分等税及分等收入税法



六ノ場合ニ於テハ内國ニ到着シタル期日及ヒ最後ノ滞在地又場  
合ニ因テハ又營業ノ種類

第四條 第三條ノ場合ノ外ニ分等税ヲ規避スヘシ(規則第十二條)及  
ヒ賦課ノ際納税者ヲ漏シタルニ因リ(規則第十四條④及ヒ千八百  
四十年六月十八日ノ租税期滿得免規則第五條第六條)又舊來分等  
收入税ヲ科シタル者ニ分等税ヲ賦課スル爲メ加入ヲ生スルコアリ  
如此加入ハ之レニ係ル命令又ハ證據ニ因リ其理由ノ概畧ヲ記シテ  
先ツ其地ノ加入簿ニ記入スヘシ

第五條 分等税ノ除税又減額ハ左ノ場合ニ因テ生スヘシ(賦課シタ  
ル税額又ハ改正シタル税額ノ除税減額ナリ)

一 箇人ノ納税者又ハ租税ヲ科シタル戸主ノ死去シタル時

二 租税ヲ賦課シタル者租税ヲ科シタル戸ニ加入シタル時(規則

第八條ノイロ)

三 婚姻ヲ爲シタル時(規則第八條ロ)

四 穀肉税ヲ科スル地方ニ轉住スル時(規則第二條第十一條)但千  
八百七十四年ニ生シ得ルノミ

五 分等税ヲ課スル地方ニ轉住スル時

六 軍務ニ就キタル時(規則第五條①②)

七 出陣又ハ戰端ヲ開キタル時(規則第五條③)

八 外國ニ轉住スル時

九 窃カニ轉住シテ其滞在地ヲ發見シ能ハサル時

十 故障又ハ控訴ノ裁定ニ因リ減税免税シタル時

分等税及分等收入税法



除税ノ理由ヲ證スル爲メ第九條ノ除税簿(〇雛形)ノ除税理由ノ部

ニ其理由ヲ記入スヘシ特ニ左ノ條件ヲ記入スヘシ

一ノ場合ニ於テハ死去ノ期日及ヒ新戸主又ハ舊戸ノ一己人ニ新  
ニ租税ヲ賦課シタル租税番號

二ノ場合ニ於テハ加入ノ期日及ヒ其事由加入シタル戸ノ租税簿  
加入簿ノ番號及ヒ月額加入シタル者ト戸トノ關係又本人ニ於テ  
別ニ營業ヲ爲サス又特別ノ收入ヲ有セス止タ戸主ヨリ住居及ヒ  
飲食ヲ受クルトノ證書ヲ附スヘシ

三ノ場合ニ於テハ婚姻ノ期日配偶者及ヒ配偶者ノ租税番號月額  
四ノ場合ニ於テハ轉住ノ期日地方但其地方ノ團結長官ノ入籍證  
ヲ添フヘシ

五ノ場合ニ於テハ四ノ箇條ノ外ニ新住居地ノ加入簿ノ番號(其  
他第六條ヲ見合スヘシ)

六ノ場合ニ於テハ軍務ニ就キタル期日及ヒ期限但軍事官署ノ證  
書ヲ添フヘシ

七ノ場合ニ於テハ出陣及ヒ戰端ヲ開キタル期日及ヒ時間但軍事  
官署ノ證書ヲ副フヘシ

八ノ場合ニ於テハ外國ニ轉住シタル期日及ヒ地方

九ノ場合ニ於テハ出入届規則ヲ遵奉シタルヤ否

十ノ場合ニ於テハ減税免税ニ係ル裁定書(第十二條ヲ見合スヘ  
シ)

第六條 第三條ノ三及ヒ第五條ノ五ニ於ケル轉住ニ付キ團結長官ハ

分等税及分等收入税法



互ニ加入ヲ通知シテ課税ニ漏泄ナカラシムヘシ此通知ヲ容易ナラシメンカ爲メ轉住スル地ノ官署ハ轉住後直ニ㊦ノ雛形ノ左方ノ書式ニ記入シテ之ヲ加入シタル地ノ官署ニ送付スヘシ加入シタル地ノ官署ハ雛形ノ右方ノ書式ニ記入シテ直ニ之ヲ轉住シタル地ノ官署ニ還付スヘシ

㊦ノ雛形ハ轉住證ヲ交付セサルカ又ハ穀肉税ヲ課スル地方ニ轉住スルトモ亦其記入ヲ變シテ用フルコトヲ得

第七條 第五條ノ場合ノ外ニ仍ホ左ノ場合ニ於テ除税スルコトアリ

- 一 二重税ヲ課シタルト
- 二 誤テ一級ニ屬スル十六歳未滿ノ者ニ税ヲ課シタルト(規則第五條㊧)

三 誤テ租税ヲ課スル戸ノ家屬ニ税ヲ課シタルト

一ノ場合ニ於テハ除税簿(㊨)ノ雛形)ニ納税者ニ租税ヲ課シタル地方ノ名稱及ヒ租税番號ヲ記入スヘシ

二ノ場合ニ於テハ除税ノ理由ノ外ニ納税者ノ誕生シタル年月日ヲ證スヘキ誕生證書ヲ添フヘシ

三ノ場合ニ於テハ第五條㊩ノ場合ニ於ケル證書ヲ添フヘシ

第八條 納税者出入ノ期日ハ規則第十一條ニ從フヘシ

此規則ニ因レハ穀肉税ヲ課スル地方又ハ外國ヨリ分等税ヲ課スル地方ニ轉住スルカ又ハ其他ノ事由ニ因テ分等税ヲ納ムヘキ者ハ其納税義務ヲ生シタル翌月ヨリ納ムヘシ又ハ穀肉税ヲ課スル地方又ハ外國ニ轉住スルカ又ハ其他ノ事由ニ因テ分等税ヲ免スヘキモノ

分等税及分等收入税法



ハ其免稅事由ノ生シタル翌月ヨリ免スヘシ然レモ第五條六七ノ場合ニ於テハ其事由ノ生シタル月ヨリ免稅スヘシ

分等稅ヲ課スル地方ヨリ他ノ分等稅ヲ課スル地方ニ轉住シタルモハ其轉住シタル月ノ租稅ハ舊住居地ニ其後ハ新住居地ニ納ムヘシ但前納セサルモ限ルヘシ(規則第十二條⑩)

第九條 出入ノ附記ニ因リ(第二條)團結長官ハ租稅取立人立會ノ上六月十二月初三⑪ノ雜形ニ從テ出入簿一通及ヒ本年五月廿九日ノ賦課法第六條ニ因テ加入簿ノ納稅者ニ付キ收入ノ明細書一通ヲ作り其明細書ノ一ノ部ニハ加入簿ノ番號ヲ記入シテ附屬書類ヲ添ヘ同月廿日マテニ之ヲ郡長ニ差出スヘシ除稅簿ニハ分等稅簿及ヒ加入簿ト同一ノ順序ヲ以テ納稅者ヲ記入スヘシ

第十條 郡長ハ出入簿ノ各部ヲ檢査シ⑫ノ雜形ニ因リ前半年度ノ郡ノ出入明細書⑬ノ雜形ニ因テ後半年度ノ明細書各一通ヲ作り出入簿加入者ノ收入明細書及ヒ附屬書類ヲ添ヘテ六月十二月ノ末ニ之ヲ縣廳(大藏局)ニ差出スヘシ

郷ニ於テハ出入ニ係ル郡長ノ事務ヲ主トルヘキ者ハ郷長ナリトス第十一條 縣廳ハ(大藏局)半年度ノ延納簿及ヒ出入簿ヲ受取りタル後直ニ之ヲ檢査シ其簿冊及ヒ郡ノ明細書ヲ確定シタル後附屬書類ヲ添ヘテ之ヲ郡長(カライスハuppトマン)郷長ニ還付スヘシ郡長ハ確定又ハ改正シタル延納簿及ヒ出入簿ヲ團結長官ニ又確定シタル郡ノ延納及ヒ出入明細書ニ附屬書類ヲ添ヘ郡出納局ニ送付スヘシ又縣廳ノ意見ニ付キ相當ノ處分ヲ爲スヘシ



「シユレスイヒホルスタインハノーフルウエストハーレンヘツセヌ  
ナツサウライン」河諸州ニ於テハ郡明細書ノ拔萃ヲ租稅局ニ明細  
書ハ附屬書類ヲ添ヘテ直接稅ノ出納局ニ送付スヘシ

第十二條 分等稅ノ故障ハ郡長(カライスハウプトマン)郡長ニ申立  
ツヘシ郡長ハ別ニ故障簿ヲ作り之ニ故障ヲ記入シ三ヶ月ノ期滿失  
權期限ヲ經タル後之ヲ終結トスヘシ然ル後郡長ハ其故障書ヲ團結  
長官ニ送付シ評定委員ノ意見ヲ述ヘシムヘシ(規則第十條①)委員  
ハ期滿失權期限ノ經過シタル後直ニ集會スヘシ其意見ハ故障書又  
ハ其封紙ニ記シ直ニ之ヲ郡長ニ還付スヘシ

郡長ハ(カライスハウプトマン)(郡長)②ノ雛形ニ因テ故障明細書  
ヲ作り且縣廳ヨリ定メタル員數ノ故障委員(規則第十四條①)ヲ郡

會(郡ニ於テハ鄉會)ニテ撰舉セシメ毎年四月中ニ委員ヲ召集スヘ  
シ

委員ノ員數ヲ定ムルニ付キ縣廳ハ(大藏局)各郡納稅者ノ員數及ヒ  
營業收入ノ性質ニ注意スヘシト雖モ通常大藏卿ノ許可ヲ得ルニ非  
サレハ貳人已下十人已上ノ員數ヲ撰舉セシムヘカラス  
員數ノ會議ヲ開クハ郡長ハ(カライスハウプトマン)(郡長)其事務  
ヨリ知得ヘキ財產及ヒ收入ヲ他ニ漏泄セシメサルカ爲メ握手ノ式  
ヲ以テ委員ニ誓約ヲ爲サシムヘシ

委員ニ於テ調査不十分ナリト認メタルハ規則第十四條②ニ因リ  
故障申立人ノ財產及ヒ收入ヲ調査スルコトヲ得其決議ハ過半數ニ因  
ルヘシ其意見ハ故障明細書ノ十一部ニ記入シ郡長(カライスハウ

分等稅及分等收入稅法



プトマン郷長)ハ十二ノ部ニ己レノ意見ヲ記入シタル後其二通ニ  
 故障書類ヲ添ヘ五月廿日マテニ縣廳(大藏局)ニ差出スヘシ  
 縣廳ハ(大藏局)故障委員ノ意見ニ同意シタルモ其裁定ヲ故障明細  
 書ノ十三ノ部ニ同意セサルモ其意見ヲ十四ノ部ニ記入スヘシ縣  
 廳ノ意見ヲ付シタル故障ハ規則第十四條①ニ因リ分等收入税ノ縣  
 内委員ニテ裁定スヘク之カ爲メ縣廳ハ故障明細書ノ拔萃ヲ作り明  
 細書ノ一通及ヒ附屬書類ヲ添ヘテ之ヲ六月十日マテニ縣内委員長  
 ニ送付スヘシ同時ニ縣廳ハ(大藏局)明細書一通ニ其裁定シタル故  
 障書類ヲ添ヘテ郡長郷長ニ還付スヘシ減税免税シタルモ其書類  
 ヲ添ヘ郡長ヲ經テ團結長官ニ送付シ除税簿ノ附録ト爲スヘシ(第  
 五條十ヲ見合スヘシ)

故障ノ全部又ハ一部ヲ却下スヘキモ郡長ヨリ直ニ却下スヘキ裁  
 定書ヲ故障申立人ニ送付スヘシ其裁定書ニハ收入及ヒ減税ノ理由  
 ト爲ルヘキ情況又故障申立人ノ申述ヘタル理由ヲ簡畧ニ記スヘシ  
 第十三條 縣内委員ノ裁定ハ成ルヘク速カニ爲シ故障明細書及ヒ其  
 拔萃ノ十五部ニ裁定ヲ記入シ其部ノ終尾ニ委員ノ署名ヲ備フヘシ  
 免税減税ノ場合ニ於テハ別ニ裁定書ヲ作り委員長署名スヘシ然ル  
 後委員長ハ裁定書故障明細書其拔萃及ヒ附屬書類ヲ縣廳(大藏局)  
 ニ送付スヘシ縣廳ハ第十二條ニ於テ縣廳ノ裁定シタルモ同一ノ  
 手續ヲ爲スヘシ但縣廳ハ已上ノ手續ヲ爲ス前ニ政府出納局ノ利害  
 ニ係ハラズ平等ニ租税ヲ賦課セシメンカ爲メ縣内委員ノ裁定ニ對  
 シ控訴ヲ爲スヘキヤ否ヲ議決スヘシ控訴ヲ爲スヘシト決シタルモ



ハ之ヲ縣内委員ノ裁定書ニ附記スヘシ故障申立人ニハ郡長(カラ  
イスハウプトマン)ヨリ其旨ヲ通知スヘシ

第十四條

故障申立人ヨリ縣廳又ハ縣内委員ノ裁定ニ對シ控訴ヲ爲  
スルハ(規則第十四條二)控訴狀ニ却下裁定書ヲ添フヘシ

控訴狀ヲ差出シタル日ニ四週間ノ期滿失權期限ヲ過キタル日ハ  
郡長ヨリ直ニ控訴狀ヲ故障申立人ニ却下スヘシ

未タ期限ヲ過キサル日ハ控訴ノ調ヲ爲シ(一)難形ニ因テ控訴明細書  
ニ通ヲ作り控訴狀及ヒ調書ヲ添ヘテ之ヲ縣廳ニ差出スヘシ

第十五條

縣廳ハ控訴ノ調(第十四條三項)十分ナルヤ否ヲ檢査シ場  
合ニ因テハ更ニ調ヲ爲シ控訴明細書ニ自己ノ意見ヲ附シ附屬書類  
ヲ添ヘテ毎年八月中ニ大藏卿ニ差出スヘシ

同時ニ縣廳ハ縣内委員ノ裁定ニ對シ爲シタル控訴ヲ報告書ニ記入  
シ其理由ヲ附スヘシ又本人ヨリ控訴ヲ爲シタル日ハ之ヲ通知シ且  
控訴明細書ノ番號ヲ付スヘシ

第十六條

故障及ヒ控訴ニ因リ本年五月廿九日ノ賦課法第十八條ノ  
改正年額ニ延納ヲ生シ規則第六條ニ從テ之ヲ平均スルカ爲メ各縣  
及ヒハノール州ニ於テハ縣廳ニテ毎年度ノ監督簿ヲ作り 一、  
縣廳ノ故障裁定 二、縣内委員ノ終審故障裁定 三、大藏卿ノ控訴  
裁定ニ因テ縣内ノ改正年額ヲ減シタル高ヲ格別ニ記シ且其總高ヲ  
掲クヘシ縣内委員ノ裁定ニ對シ縣廳ヨリ控訴ヲ爲シタルカ爲メ生  
スヘキ延納ハ控訴ノ裁定アリタル後其裁定ニ因テ延納ヲ認メタル  
日ニ非サレハ監督簿ニ記入スヘカラス



故障又ハ控訴ノ裁定ニ因リ一年内ニ於テ定額ニ加入シタル税額ヲ減シタルトハ之ヲ監督簿ニ記入スヘカラス又他ノ事由ニ因テ年額ニ除税延納ヲ生シタルトモ亦同シ

毎年縣廳ハ十二月十五日迄ニ①ノ雛形ニ因テ監督簿ノ明細書一通ヲ作り其事柄及ヒ計算ノ確實ナルコトヲ證シタル後之ヲ大藏卿ニ差出スヘシ其期日ハ延納スヘカラス

第十七條 以上ノ取立法ハ千八百七十四年一月一日ヨリ効力ヲ有スヘシ因テ同期日ヨリ千八百五十一年六月十九日ノ取立法ハ廢止タルヘシ

①雛形

何郡内何團結ノ何年ノ半年ノ分等税ニ付キ執行ヲ爲シタルモ

其効ナク延納シタル納税者ノ氏名簿

一	番號	
二	租税取立簿及ヒ租税計算簿ノ番號	
三	分等税簿及ヒ加入簿ノ番號	
四	延納者ノ氏名身分又ハ營業	
五	延滞時間	
六	租税ノ月價	
七	延納税額	總高
八	租税執行者ヨリ執行スルモ其効ナキコトヲ證ス又如何ナル理由ニ因リ執行スル能ハサルコトヲ證スヘシ	執行者

分等税及分等收入税法







入 除  
五 六 七 八 九 十 十一 十二 一 二 三

課税ノ等級	月		因テ總計 何ケ月	總計		加入ノ理由
	ヨリ	マテ		月額	總計	
	加入ヲ計算ス					
分等税簿及ヒ加入簿ノ番號 除税シタル者ノ氏名 町名及ヒ番號						
總計						

税

課税ノ等級	月		因テ總計何ケ月	總計		加入ノ理由
	ヨリ	マテ		月額	總計	
	除税ヲ計算ス					
本人ノ身分又ハ營業 加入幾許「タ—レル」シルベルグロ—セン 除税幾許「タ—レル」シルベルグロ—セン 因テ幾許多少收入 分等税及分等收入税法						
總計						



以上ニ掲ケタル何年半年度ニ分等税ノ加入及ヒ除税ノ幾許「タ」  
レル「アベセ」ヲ以テ記スヘシヨリ多少ナキコトヲ證ス

月日

方地 團結長官署名  
租税取立人署名

㊦ 雛形

何年前半年度 何郡内分等税出入ノ明細書

一	番號	
二	地方ノ名稱	
三	千八百七十三年五月廿九日ノ賦課法第十八條 ニ因リ改正シタル租税ノ月額	
四	前半年度六ヶ月ノ税額	
五	加入	
六	除税	
總數		
加入		
除税		

七	前半年度六ヶ月ノ收入	
八	加入	
九	除税	
十	三ノ部ヲ合算シテ残ル月額	
十一	附記	
十二		

㊦ 雛形

何年ノ後半年度 何郡内分等税  
出入ノ明細書

一	番號	
二	地方名稱	
三	租税ノ月額	
四	後半年度六ヶ月ノ税額	

分等税及分等收入税法



八 七 六 五

總計

加入  
除稅

後半年度六ヶ月ノ收入

附記

◎雜形

何縣

何郡内分等稅故障明細書

四 三 二 一

障 故

番號

住居地

分等稅簿ノ番號

氏名

十五	十四	十三	十二	十一	十	九	八	七	六	五
縣内委員ノ裁定		裁定 縣廳	意見	意見	評定委員	故障書ノ概略	團結明細書ノ課稅徵證 千八百七十三年五月 廿九日賦課法第六條	該年度	前年度	身分又ハ營業
			見	見						
			郡長							

分等稅及分等收入稅法



① 雜形

何縣 何年度何郡内納稅者ノ控訴明細書

九	八	七	六	五	四	三	二	一
見	意	分等稅ノ等級		故障申立人ノ氏名身分又ハ營業及ヒ住所		故障明細書ノ番號		
故障委員	評定委員	該年度	前年度	團結明細書ノ課稅徵證千八百七十三年五月廿九日ノ賦課法第六條		故障及ヒ控訴ノ理由		

十四	十三	十二	十一	十
大藏卿ノ裁定	意見	縣廳又ハ縣内委員ノ裁定		
	縣廳	郡長	控訴	

② 雜形

何縣 何年度 故障控訴ニ因テ生シタル延納明細書

附記一此明細書ハ止タ分等稅簿ニ記入シタル者ノ故障控訴ニ因テ生シタル延納ノミヲ記入スヘシ故障控訴ニ因リ年額ニ加入シタル租額ヲ減スヘキモノハ記入スヘカラス  
 二縣廳ノ故障裁定(四部)ニ在ラスシテ縣内委員ノ裁定(五部)ニ分等稅及分等收入稅法



因テ減稅スヘキモノニ對シ縣廳ヨリ控訴ヲ爲シタルハ大藏卿ニ於テ其控訴ヲ却下シタル後初メテ五部ニ減稅ヲ記入スヘシ

一	番號
二	郡
三	規則第六條ニ因リ改正シタル分等稅ノ年額
四	縣廳ノ故障裁定
五	縣內委員ノ故障裁定
六	大藏卿ノ控訴裁定
七	總數(四ヨリ六ニ至ル部ノ總數)

分等收入稅賦課法千八百七十七年三月四日大藏卿布達

千八百五十一年五月八日ニ評定委員長ノ爲メ發シタル賦課法ヲ廢シ  
千八百五十一年五月一日千八百七十三年五月廿五日ノ規則第三十八條ニ因リ左ノ賦課法ヲ發シタリ

第一條 左ニ掲クル一年ノ收入三千一「マルク」以上ヲ有スル者ハ分等收入稅ヲ納ムヘシ

①普國人民、外國ニ(外國及ヒ外國人トハ獨逸國外ノ諸國及ヒ其國民ヲ云フナリ)滞在スルモ納稅義務ヲ免セス他ノ獨逸國內ニ滞在又ハ住居スルルハ(千八百七十年三月十三日ノ法律第一條二項(獨逸法律全書百十九帖)ニ因レハ久シク滞留スル目的ヲ以テ住居スル地ヲ住居地ト看做スヘシ但住居トハ一時滞在スル爲メ分等稅及分等收入稅法



設ケタルカ又ハ狹小ナル滞在所ヲ云フニ非ス其場所ハ久シク滞在スル爲メニ設ケタルモノニシテ本人及ヒ其家屬ノ身分相當ノ場所ナルヘシ）普國內ニ住所ヲ有セサルカ又住居ヲ有スルモ他ノ獨逸國內ニ於テ獨逸又ハ各國ノ官吏トシテ職務上ノ住居ヲ有スルニ非サレハ其義務ヲ免セス

④營業ノ爲メ又一年以上普國內ニ滞在スル外國人

⑤他ノ獨逸國民ニシテ左ノ場合ニ於テ④ノ要件ニ適シタル者

一普國又ハ他ノ獨逸國內ニ住所ヲ有セサル者

二普國內ニ住居ヲ有スレモ同時ニ本國ニ住居ヲ有セサルカ又ハ

此獨逸國內ニ於テ獨逸又ハ各國官吏トシテ職務上ノ住居ヲ有

セサル者

三普國內ニ於テ獨逸又ハ各國官吏トシテ職務上ノ住居ヲ有シ同時ニ他ノ獨逸國內（本國ニ於ケルモ亦然リ）ニ住居ヲ有ズル者

第二條 分等收入税ハ所有地資本金又ハ年賦金其他ノ利益營業又ハ

利益アル事業ヨリ生スル收入ニ科スヘシ

第三條 然レモ左ニ掲クル收入ヲ除クヘシ

①千八百七十四年五月二日ノ獨逸軍制第四十六條ニ因リ下士兵卒ノ軍務上ノ收入（獨逸法律全書四百五帖）

②外國ニ在ル所有地ヨリ生スル收入但外國ニ於テ其收入ニ同一ノ租税ヲ完納スルコトヲ證明スヘシ

③普國人又ハ他ノ獨逸國民ノ他ノ獨逸國內ニ在ル所有地及ヒ營業分等税及分等收入税法



ヨリ生スル収入又軍人文官及ヒ其家屬ノ俸給退隱料休職料ヲ他  
ノ獨逸國內ノ出納局ヨリ受クルル然レモ獨逸出納局ヨリ俸給等  
ヲ受クルルハ此限ニ在ラス

第四條 左ニ掲クル者ノ収入ノ一部ニハ左ノ制限ヲ以テ租稅ヲ科ス  
ヘシ

①他ノ獨逸國內ニ住居又ハ滞在シ同時ニ普國內ニ住居ヲ有セサル  
カ又ハ普國內ニ住居ヲ有シ同時ニ他ノ獨逸國內ニ職務上ノ住居  
ヲ有スルニ因リ第一條①ニ從テ課稅スルコト能ハサル普國人普國  
内ニ所有地ヲ有スルカ又ハ營業ヲ營ムル又ハ軍人文官又ハ其遺  
屬トシテ普國ノ出納局ヨリ俸給退隱料又ハ休職料ヲ受クルル  
(普國出納局ヨリ俸給退隱料休職料ニ限ルヘシ獨逸出納局ヨリ

受クル者ハ此限ニ在ラス)軍人及ヒ其遺屬ニハ獨逸出納局ヨリ  
其仕拂ヲ擔當シタルヲ以テ是等ノ者ニ付テハ千八百七十年五月  
十三日(第四條)ノ規則ノ効力ヲ失ヒタリ止タ稀レニハ軍人ニ付  
キ以上ノ場合ヲ生スヘキコアリ

②外國人及ヒ他ノ獨逸國民普國內ニ住居又ハ滞在セサルモ所有地  
製造場又ハ商店ヲ有スルカ又ハ之レニ加入シタルモ

③他ノ獨逸國民營業ノ爲メ又ハ一年以上普國內ニ滞在スルモ租稅  
ヲ課スヘキ事由(第一條ノ①)ナク軍人文官又ハ其遺屬トシテ普  
國出納局ヨリ俸給退隱料又ハ休職料ヲ受クルルモ

④ヨリ⑤マテノ場合ニ於テハ其収入ノ高ニ因テ租稅ヲ課スヘシ

第五條 左ニ掲クル者ハ免稅スヘシ

分等稅及分等收入稅法



①皇族及ヒ「ホーエンツォルレン」公家

②「ハノーフル王家」クールヘツセス及ヒ「ナツサウ」兩侯家

③普國滞在ノ公使代理公使及ヒ公使館附ノ官吏屬官使丁但外國人ナルト普國人ナルトニ拘ハラズ

然レモ公使館附ノ官吏使丁等普國內ニ所有地ヲ有スルカ又ハ營業ヲ營ムルハ第四條①②ニ因テ租稅ヲ課スヘシ

③外國ノ領事ハ條約ニ因リ租稅ヲ免シタルモ但普國內ニ於テ所有地ヲ有セス且營業ヲ爲サズ止タ領事ノ事務ノミヲ主ルモニ限ル然レモ外國ノ領事ト爲リタル普國民及ヒ外國領事ノ使丁ハ免稅ノ限ニ在ラス

免稅スヘキヤ否ニ付キ疑ヲ生シタルモハ縣内委員長ヲ經テ大藏

卿ノ裁定ヲ乞フヘシ

第六條 人ノ集合例ヘハ株券會社其他ノ商社組合相續人一統法律上人ト看做スヘキ者其他ノ團結等ニハ租稅ヲ課スヘカラス又嫡子相續地世襲ノ土地等ニ於ケルモ亦然リ租稅ハ必ス當時其財産ヲ使用スル者ノ收入高ニ因テ賦課スヘシ例ヘハ商社ノ社員株券所有者等ニ賦課スヘキカ如シ

第七條 第二條ニ掲ケタル各收入及ヒ其總收入ヲ評定スルニハ千八百七十七年一月三日ノ分等稅及ヒ分等收入稅ヲ賦課スヘキ收入ノ評定法ニ因テ爲スヘシ家屬ニ特別ノ收入アルモハ規則第十六條ニ因リ之ヲ納稅者ノ收入ニ算入スヘシ  
所屬等級ヲ確定スルニハ止タ納稅者ノ總收入ニ據ルヘシ特別ノ活

分等稅及分等收入稅法



計ニ因リ納稅者ノ資力ヲ酌量スルハ(多人數ノ子女貧窮ナル家屬ヲ救助スヘキ義務資力ヲ減スヘキ負債非常ノ災厄)例外ニシテ一級又ハ二級ニ屬スル者ニ限ルヘク且止タ一級ヲ減稅スルヲ得ヘシ納稅者ノ收入ニ因リ一級ニ屬スル者ナルハ分等稅十二級ニ評定スヘシト雖モ分等稅ノ納稅者ニ算入スヘカラス  
以上ノ場合ニ於ケル手續ハ前評定法第三十一條ニ據ルヘシ又同法ニ因テ減稅スヘキ事由ヲ判定スヘシ

第八條 租稅ノ賦課取立ハ通常納稅者(普國民獨逸國民外國人)ノ住居地(團結)ニ於テ爲スヘシ數ヶ所ニ住居スルカ爲メ各地方ニ於テ評定ヲ爲スヘキハ最多ノ收入ヲ評定シタル地方ニ於テノ租稅ヲ賦課シ其他ノ賦課稅額ヲ除クヘシ此場合ニ於テハ其他賦課ノ手續及ヒ取立ハ納稅者ニ於テ租稅ヲ取立ツヘキ一住居地ヲ定ムルニ非サレハ最多ノ評定額アル地方ニ於テ爲スヘシ但其都度數ヶ所ニ住居スルヤ否ヲ檢査スルニ付テハ先ツ一定ノ地方ニ住居スルヤ否ヲ判定スヘキハ第一條ノ附錄ノ調書ヲ有スルニ非サレハ住居ト看做スヘカラス

士官ノ其屯聚ノ地ヲ離レ他ノ地方ニ於テ指揮ヲ爲スヘキハ豫メ其指揮ノ期限六ヶ月以上ナルヲ定ムヘキ場合ニ限り轉職ト同一ニ看做シ舊來ノ屯聚地ヲ以テ職務上ノ住居地ト看做スヘカラス新タニ轉スルカ又ハ指揮ノ爲メ滞在スル地方ヲ住居地ト看做スヘシ然レモ軍屬ニ在テハ全ク舊來ノ官署トノ關係ヲ離ル、ニ非サレハ住居地ヲ轉シタル轉職ト看做スヘカラス故ニ屯聚地ヨリ轉スルモ



士官ニ於ケル如ク豫メ六ヶ月以上ノ潜在ナルコトヲ定メ得ルヲ以テ職務上住居地ノ變更ト看做スコトヲ得ス

外國ニ潜在スル普國人内國ニ住居地ヲ有スルハ其住居地住居地ヲ有セサルハ最後ノ潜在地又ハ最後ニ租税ヲ取立タル地方ニ於テ租税ヲ賦課スヘシ普國內ニ潜在スルカ爲メ租税ヲ納ムヘキモノハ其潜在地普國內ニ所有地ヲ有シ又ハ營業ヲ爲スカ爲メ又ハ之レニ加入シタルカ爲メ租税ヲ納ムヘキモノハ所有地所在地又ハ營業ヲ營ム地ニ於テ租税ヲ課スヘシ其土地内國ノ數箇所ニ跨ルカ又ハ數ヶ所ニ於テ營業ヲ爲スハ數箇所ニ住居スル場合ノ規則ニ從フヘシ

第九條 各評定區ニ於テハ毎年千八百五十一年五月一日千八百五十

三年五月廿五日ノ規則第二十一條ニ因リ評定委員ヲ撰擧スヘシ其撰擧ハ縣廳(以下ニ縣廳又ハ郡長ヲ掲ケタルモノハ「ハノーフル州」ニ於テ大藏局又ハ「カライスハウプトマン」ナリト了解スヘシ又郷ニ於テハ郡長ノ代リニ縣廳ヨリ命シタル主任者ヲ用フヘシ伯林ニ於テハ直接稅管理局ニ於テ縣廳ノ事務ヲ主トルヘシ)ノ認可ヲ受クルヲ要セス縣廳ハ其撰擧ノ方式ニ適スルヤ否ヲ検査スヘシ委員長ハ委員及ヒ其代理人ノ氏名簿ヲ縣廳ニ差出スヘシ

第十條 評定委員ノ會頭ハ郡長又ハ特ニ縣廳ヨリ命シタル主任者ニ於テ勤ムヘシ郡長代理人又ハ郡書記ニテ郡長ヲ代理スルニハ豫メ縣廳ノ許可ヲ受クヘシ至急ノ故障ニ因リ豫メ許可ヲ受クルコト能ハサルハ速カニ縣廳ニ代理人ヲ通知スヘシ

分等稅及分等收入稅法



會頭ハ同時ニ租税ノ賦課ニ付キ政府ヲ代理スヘキ者ニシテ其利害ヲ圖リ特ニ法律及ヒ規則ニ因テ收入ヲ評定スヘキ責ニ任スヘシ其他會頭ハ租税賦課上等官署及ヒ縣廳ノ屬官ナレハ其權限内ニ於テ發シタル指揮命令ニ從フヘシ(第二十一條ヲ見合スヘシ)特ニ左ノ義務アリ

一先ツ法律ニ因テ評定委員ヲ設ケタルヤ否ヲ検査シ法律ニ背キタルハ氏名簿(第九條)ヲ縣廳ニ差出スル旨ヲ通知シテ改正セシムヘシ

二其他所屬評定区内ノ租税賦課ニ係ル一切ノ事務ヲ總轄シ評定委員ノ議事ヲ豫備シ其會議ヲ整頓シ議決ヲ施行スヘシ  
團結長官及ヒ獨立シタル里長ハ會頭ノ屬官ニシテ租税ノ賦課評

定ニ係ル會頭ノ命令ニ從フヘシ

第十一條 特ニ會頭ハ左ノ簡條ニ付キ團結長官及ヒ里長ニ命令ヲ下スヘシ

一第八條ニ因リ團結ニ於テ租税ヲ課スヘキモノ、明細書ヲ作ラシ

ムヘシ團結長官ハ其氏名簿ニ左ニ掲クル者ヲ記入スヘシ

一前年度ニ於テ分等收入税ヲ賦課シタル者

二分等税ヲ賦課スルハ評定委員ニ於テ翌年度ニハ三千一マルク以上ノ收入アリト述ヘタル者

三會頭ニ於テ分等收入税ヲ賦課スヘシト爲シタル者

四團結長官ノ意見ニ因リ三千一マルク以上ノ收入ヲ有スル者

分等税及分等收入税法



二所屬評定區内ノ納稅者ノ所有財産營業收入ヲ調査セシメ及ヒ評定ヲ容易ナラシムヘキ證憑ヲ集取セシムヘシ但納稅者ノ家事ニ立入ルヘカラス

調査シタル結果ハ團結長官ニ於テ第一ニ掲ケタル明細書ニ記入シ會頭ノ命シタル書式ニ因テ之ヲ作り毎年一定ノ期日マテニ會頭ニ差出スヘシ

第十二條 會頭ハ團結長官ヨリ指出シタル明細書ヲ檢査シ其不足ヲ補フノミニ止ラス納稅者ノ所有財産營業收入ヲ調査シ評定ニ關係アル收入ノ變更ヲ審査シ且其變更ヲ明細書ニ記入シテ翌年度課稅ノ用ニ供セシムヘシ  
之レカ爲メ會頭ハ左ノ方法ヲ用フルコトヲ得

一政府及ヒ團結ノ官署官吏(又間接稅ヲ管理スル官吏及ヒ間接稅簿檢査官)ニ囑托シテ職務上ノ明細書ヲ求ムルコト(例ヘハ政府團結官吏ノ俸給土地ノ大小及ヒ善惡及ヒ其純益家屋ノ使用價土地ノ賣買讓與相續間接稅額等)

二地稅營業稅及ヒ團結稅簿年賦金遺囑物稅局ノ書類地稅家屋稅登記簿等ヲ檢閱スルコト

三評定區内ノ團結又ハ其ニ地方ニ行ハル、土地家屋貸付料ノ報告ヲ集ムルコト但其報告ハ官宅又ハ公用地ノ收入ヲ評定スルコトニ用フヘキモノニシテ是等ノ物ヲ俸給ヨリ扣除セサルコトニ限ルヘシ又自カラ農業ヲ營ム者土地及ヒ自己ノ住居ニ供スル家屋ノ收入ヲ評定スルコトニモ其報告ヲ用フルコトアリ

分等稅及分等收入稅法



四納稅者ノ收入(財産營業)ヲ知り及ヒ確實ニ之ヲ判定シ得ルモノヨリ其詳細ヲ陳述セシムルコト

五納稅者ニ依頼シテ自カラ收入又ハ資本金又ハ營業又ハ開業醫ノ收入高又ハ代言人ノ手数料等ヲ陳述セシムルコト

法律ハ納稅者自カラ其收入ヲ陳述スヘキ規則ヲ掲ケス因テ法律ハ強テ陳述ヲ爲サシムルヲ欲セサルモノトス故ニ納稅者ハ其收入ニ付キ更ニ陳述ヲ爲スヘキ義務ナシ(故障ノ場合ニ於テハ格別ナリ)因テ納稅者ハ直接間接ニ陳述スベキ脅迫ヲ受クルコトナシ然レモ納稅者ニ於テ其收入ヲ陳述セント欲スル所ハ何時タリトモ之ヲ爲スコトヲ得且其陳述シタルコトニ付キ更ニ疑ナキ所ハ特ニ之ヲ酌量スヘシ又租稅ヲ賦課スルニ付テモ信用スヘキモノ自カラ其總收入又ハ

各部ノ收入ヲ陳述シタルニ因リ之ヲ酌量スヘキ時ハ別ニ調査ヲ爲スニ及ハサルノ便利アルノミナラス又他ノ納稅者ノ收入ヲ評定スルノ根據ト爲レハナリ故ニ會頭ハ信用スヘキ納稅者ニ其收入ヲ陳述セシメンコトヲ注意スヘシ特ニ大ナル郷ニ於テハ評定ヲ爲スノ證據ナキヲ以テ書面ヲ以テ依頼ヲ爲スカ又ハ自カラ依頼シテ其收入ヲ陳述ヒシムルヲ善トス會頭ノ依頼ニ應ジテ自カラ陳述ヲ爲シタル所會頭ハ其陳述シタルコトヲ檢査シ場合ニ因テハ増補改正スヘキ箇條ヲ納稅者ニ通知シテ之ヲ爲サシムヘシ

如此調査ヲ爲シタル所ハ其調査シタル箇條ト團結長官ヨリ差出シタル證據ニ因リ會頭ハ評定區内ノ收入明細書ヲ作ルヘシ其書式ハ縣内委員長ノ命シタル方法ニ從フヘシ其明細書ニハ又縣廳縣内



委員又ハ其長ニ於テ分等收入税ヲ賦課スヘシト爲シタル者ヲ記入スヘシ

然ル後會頭ニ於テ收入明細書ヲ検査シテ納税者ノ收入ヲ漏サス其收入ヲ評定スルニ付キ規則第二十八條ヨリ第三十條マテ及ヒ其說明賦課法納税者ノ活計ニ戻ラサルコトヲ信シ又總收入ヨリ規則ニ從テ扣除スヘキ者ヲ扣除シタル後明細書ノ一定ノ部分ニ於テ其意見ニ因リ所屬等級ヲ記入スヘシ

明細書ニ記入シタル所屬等級ハ納税者ノ收入ニ相當スヘシ然レモ規則第二十條ノ減税スヘキ理由アリト認めタルハ一級二級ノ者ニ限り減税ヲ爲シ其都度明細書ニ減税ノ事由ヲ掲クヘシ如此賦課ノ準備ヲ爲スハ數團結ニ跨リタル所有地及ヒ營業ハ格別ニ之ヲ

評定スルヲ善トス準備終リタルハ會頭ハ評定ヲ爲サシメンカ爲メ委員ヲ召集スヘシ別ニ定メナキハ該年度三月五日已前十日以後ニ召集スヘカラス又同月十五日前ニ其事務ヲ終ルヘシ

第十三條 委員會ハ會頭ニテ之ヲ開キ委員ニテ法律ニ因リ公平ニ評定シ誠實ニ執行スル義務アルコトヲ知ラシメ且職務上知得タル財産收入ヲ他ニ漏サ、ラシムル爲メ握手ノ式ヲ爲シテ誓約セシムヘシ

第十四條 委員ハ會頭ヲ除キ半數以上出席スルニ非サレハ議決ヲ爲スコトヲ得然レモ六名以上ヨリ成ルハ三名ノ出席ヲ以テ足レリトス最初欠席多キカ爲メ決議ヲ爲スコト能ハサルニ因リ再度召集シタルハ出席ノ員數ニ拘ハラズ議決スヘシ再度召集スルモ一名ノ出席者ナキカ又ハ出席スルモ評定ヲ肯ンセサルハ會頭ハ自カラ評



定ヲ爲シ且納稅者ニ評定(第十七條)ヲ通知スヘシ但再度召集スル  
ル其旨ヲ通知スヘシ又場合ニ因テハ質問ノ議決及ヒ其裁定ヲ爲ス  
カ爲メ委員ヲ召集スヘキモ同シ  
委員ノ議決ハ過半数ニ因テ爲スヘシ會頭ハ可否同數ナルモニ限り  
投票ヲ爲スコヲ得且其投票ニ從フヘシ  
委員ハ自己ノ評定ニ付キ其議事ニ加ハルヘカラス會頭ニ於ケルモ  
同一ニシテ年長者代テ會頭ト爲ルヘシ會頭ヲ代理スル時間ハ會  
頭ノ權利義務ハ代理者ニ移ルヘシ  
委員ハ通常會頭ヨリ召集シタル議席ニ於テ議決スヘシ至急ヲ要ス  
ルカ又ハ事件ノ明了ナルモハ會頭ノ意見ニ因リ委員ニ廻文ヲ爲シ  
テ議決スルコヲ得特ニ一年度内ニ評定スヘキモ及ヒ納稅者ノ收入

財産ヲ調査スルニ非サレハ未タ評定ヲ爲スコ能ハサルモハ(第十  
五條)廻文ヲ用フルコヲ得

第十五條 委員ハ先ツ會頭ノ差出シタル收入明細書ヲ検査スヘシ檢  
査ヲ爲スニハ明細書ニ附屬スル書類及ヒ現在ノ證憑ニ因テ誠實ニ  
爲スヘシ

検査ヲ爲スカ爲メ第十二條一ヨリ五マテノ方法ヲ用フルノミナラ  
ス又納稅者ノ收入ヲ知ルニ必用ナリト認メタルモハ訴訟ニ非サル  
裁判調書土地書入簿又ハ土地登記簿ノ明細ヲ知ルコヲ得然レモ縣  
内委員ニ非サレハ納稅者ノ財産收入ヲ調査スル爲メ證人(場合ニ  
因テハ管轄裁判所ニ於テ誓約ヲ爲シテ訊問スルコアリ)及ヒ納稅  
者ヲ訊問シ所有ノ文書土地貸付條約書借用證商業簿等ヲ差出サシ  
分等稅及分等收入稅法



メ又ハ誓約ノ代リニ辨明ヲ爲サシムル權ナシ  
以上ノ方法ヲ用フルニハ左ノ箇條ニ注意スヘシ

一 信任者及ヒ鑑定人(第十二條第四ヲ見合スヘシ)ヲ委員會ニ於テ  
訊問シ又納稅者自ラ委員會ニ於テ其收入ヲ述ヘント欲スルハ  
之ヲ許スコヲ得然レモ陳述シタル者ハ議決ノ席ニ臨ム可カラ  
ス

二 納稅者自カラ陳述シタル收入財産ハ(第十二條第五ヲ見合スヘ  
シ)已ニ掲ケタルカ如ク特ニ之ヲ酌量スヘシ然レモ委員ハ各別  
ノ收入又ハ其總高ヲ十分ニ陳述シタルヤ及ヒ法律ニ因テ其收入  
ヲ評定シ得ルニ足ルヘキ證據ヲ差出シタルヤ否ヲ檢査スヘシ其  
陳述十分ナラサルカ又ハ其正否ニ疑アリ且納稅者ニ増補改正ヲ

求ムルモ之ヲ肯セサルカ又ハ分明ナラサルハ委員ノ見込ニ  
因リ其收入ヲ評定スル用ニ供スヘキ陳述ノミヲ酌量スヘシ  
納稅者自カラ誓約ノ代リニ辨明シタル者ハ之ヲ辨明セサル者ト  
看做スヘシ如此辨明ハ管轄官署ヨリ一定ノ方式ヲ定メ且之ヲ  
求メタルハ非サレハ酌量スヘカラス

三 委員ニ於テ爭訟ニ非サル裁判調書(後見遺言遺囑物及ヒ土地登  
記簿ニ係ル書類)及ヒ土地登記簿土地書入簿)ヲ檢閲セントスル  
ハ會頭又ハ委員一名ニテ檢閱スヘシ但會頭ハ團結長官又ハ其  
他秘密ニスヘキ義務アル官吏ニ代理セシムルヲ得

納稅者ノ收入ヲ評定スルニ付キ其收入財産ヲ調査スヘキモ仍ホ  
以上ノ方法ヲ用ヒテ其關係ヲ明瞭ナラシムヘシ已ムヲ得サル場

分等稅及分等收入稅法



合ニ於テハ其調査終ルマテ評定ヲ延滞スヘシ

第十六條 收入明細書ノ検査ヲ終リ且之ヲ十分ナリト決シタルハ  
 仍ホ財産收入ヲ調査スルニ及ハサル者ヲ評定スヘシ評定ヲ爲スニ  
 ハ第十二條ノ會頭ノ意見ニ係ル規則ヲ遵奉スヘク特ニ所屬等級ト  
 評定シタル收入ト一致スヘシト雖モ一級二級ニ屬スル者ニ減稅ス  
 ヘキ理由アリト認メタルハ格別ナリ然レモ評定シタル總收入ハ  
 必ス各別ノ收入ヨリ其義務ヲ扣除シタル高二相當スヘキニ非ス其  
 間ニ差ヲ生シタルハ其理由ヲ付スヘシ  
 委員ノ評定シタル等級會頭ノ意見ニ違ハサルハ其等級ヲ收入明  
 細書ノ一定ノ部ニ記入スルヲ以テ足レリトス  
 會頭ノ意見ニ違フタルハ一定ノ部ニ其理由ヲ掲クヘキノミナラ

ス各收入及ヒ總收入ノ異ナル所ヲ記スヘシ  
 評定終リタル後委員又ハ會頭ニテ之ヲ變スヘキ事實ヲ知リタルハ  
 委員ハ更ニ評定ヲ爲スヘキ權利義務アリト雖モ未タ納稅者ニ其評  
 定ヲ通知セサル前ニ限ルヘシ  
 評定ノ事務終リタルハ會頭及ヒ委員收入明細書ニ署名シ其公正  
 ナル謄本ヲ作り會頭ヨリ縣内委員長ノ定メタル期日ニ之ヲ差出ス  
 ヘシ

第十七條 評定ヲ終リタルハ直チニ會頭及ヒ委員二名以上ノ署名  
 ヲ有スル封書ヲ納稅者ニ送付シテ其所屬等級及ヒ租稅ノ月額ヲ通  
 知スヘシ又同時ニ左ノ事件ヲ通知スヘシ

④其評定ニ對シテハ本人ヨリ二箇月ノ期滿失權期限内ニ會頭ニ質

分等稅及分等收入稅法



間ヲ爲スコヲ得且其理由ヲ述ヘシカ爲メ自己又ハ信任者二名以上ヲシテ文書又ハ對審ヲ用ヒ又ハ他ノ證憑ニ因テ委員ニ過分ノ評定ヲ爲シタルコヲ知ラシムルコ

①質問ヲ爲スモ一定ノ期日ニ租税ヲ納メ過分ノ税額ハ他日之ヲ還付スヘキコ

控訴ヲ爲シタルキ之ヲ納税者ニ通知スルニハ第二十一條ノ規則ニ從フヘシ

會頭ハ以上ノ封書ヲ無賃ニテ送付シ納税者ヨリ受取證ヲ取り受領ノ期日ヲ明了ナラシムヘシ納税者ニ送付スルニハ左ノ手續ニ從フヘシ

内國ニ住居スル納税者ナレハ一時不在ナルモ一般官署ノ命令書

ヲ送付スル手續ニ從フヘシ普國內ニ住居ヲ有セス外國ニ滞在スル者ナルキハ書留郵便ヲ以テ送付シ其受取證ヲ質問書類ニ添フヘシ納税者ニ通知スルコト能ハサルカ(例ヘハ納税者ノ滞在地ニ文書ヲ郵送スルコト能ハサルカ如シ)又特別ノ事由アリテ其送達ノ確實ナラサルキハ(例ヘハ外國ニ於ケル滞在地ヲ知り能ハサルカ如シ)其外國ノ官署ニ依頼シ場合ニ因テハ獨逸公使館ニ送付ヲ求ムルコトヲ得公使館ニ求ムヘキキハ縣内委員長ヲ經テ文書ヲ外務局ニ囑托スヘシ

第十八條 通知書ヲ納税者ニ送達シタルキハ先ツ税額ノ確定シタルモノトシ左ノ事由アルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス但評定委員ノ議決ニ對シ會頭ヨリ控訴ヲ爲シタルキハ格別ナリ(第二十一條)

分等税及分等收入税法



一 納税者ヨリ免稅又ハ減稅ヲ申立期限ヲ誤ラス質問ヲ爲シタルニ因リ其評定ノ相當ナラサルモ(第十九條)

二 一年度内ニ於テ評定シタル收入ヲ減シタルニ因リ法律ニ從テ減稅スヘキモ(第二十二條第二十三條)

第十九條 質問ヲ爲スニケ月ノ期滿失權期限ハ曆表ニ從ヒ第十七條ノ通知書ヲ受取リタル翌日ヨリ起算スヘシ  
其後質問ヲ爲スモ會頭ハ直ニ之ヲ却下スヘシ期限内ニ質問ヲ爲シタルモハ縣内委員長ノ命シタル書式ニ因テ作りタル明細書ニ記入シ且同時ニ相當ノ調査ヲ爲スヘシ特ニ増補説明ヲ要スルモハ一定ノ期滿失權期限内ニ質問者ニ之ヲ爲サシムヘシ又會頭ハ期限内ニ増補説明ヲ爲サ、ルカ又其不十分ナルモハ質問者ニ於テ辨明スル

「能ハスト看做スヘキ」ヲ通知スルヲ得又會頭ハ自カラ納税者ヲシテ辨明セシメ又ハ委員一名以上ニ命シテ爲サシムルヲ得且事實ニ付キ相當ノ辨明ヲ爲サシメ其證憑ヲ集取スルヲ得  
事實ヲ辨明セシムルニハ左ノ手續ニ從フヘシ  
質問者ヨリ言語又ハ文書ヲ以テ過分ノ稅額ヲ證明シタルモハ其都度其證憑ヲ集取スヘシト雖モ證明スヘキ事實ノ明了ナルカ又ハ其事實評定ニ關係ナキモハ格別ナリ信任者ヲシテ證明セント欲シタルモハ納税者ヲシテ之ヲ撰定セシメ必ス其辨明ヲ爲サシムヘシ其氏名ヲ述ヘサルモハ會頭ヨリ短ナル期滿失權期限内ニ之ヲ述ヘシムヘシ然レモ會頭ニ其撰定ヲ求メタルモハ成ルヘク之ヲ承諾スヘシ但其費用ハ政府ノ出納局ニテ負擔スルニ及ハス



質問者ハ信任者ヲシテ一定ノ期限内又ハ期日ニ言語(會頭又ハ特  
 ニ命シタル委員又ハ委員會ニ於テ)ヲ以テ辨明セシメ又ハ其已前  
 ニ書面ヲ差出スヘシ書面ヲ差出スニハ信任者ニ自己ノ財産收入ヲ  
 通知シ且相當ノ證據ヲ交付シテ延滞ナク書面ヲ作ラシムヘシ  
 會頭ハ書面ヲ以テ質問者ニ一定ノ期限又ハ期日ニ信任者又ハ其以  
 前ニ書面ヲ差出スヘク之ヲ怠ルキハ現在ノ調査ニ因リ質問ヲ裁定  
 スヘキコトヲ通知スヘシ  
 又速カニ質問ヲ落著セシムル爲メ預シメ信任者ノ氏名ヲ通知セシ  
 メ辨明又ハ書面ヲ出スヘキ期限日及ヒ左ノ條件ヲ通知スルヲ善  
 トス

信任者ハ納税者ノ收入ヲ判定シ又ハ其所屬等級ヲ判定スヘキニ非

ス止タ其收入ヲ明瞭ナラシムヘキ事實ヲ辨明スヘク故ニ質問者ノ  
 各別ノ收入ヨリ生スル總高及ヒ其證據ヲ差出シ委員ヲシテ總收入  
 ヲ判定シ且法律ニ違ハサルヤ否ヲ判定シ易カラシムヘキコト(規則  
 第二十八條ヨリ第三十條マテ)然ル後評定委員ハ信任者ノ意見ヲ  
 検査シ質問ノ理由ナキカ又ハ其正否ニ疑アルキハ第十五條第二ノ  
 辨明ニ於ケルカ如ク酌量スヘシ

評定委員自カラ信任者ト爲リタルキハ質問者ヲシテ辨明セシメ之  
 ヲ検査シ然ル後委員會ニ報告スヘシ  
 質問ヲ調査シタル後ハ委員會ニ於テ之ヲ議決スヘシ會頭ヨリ其議  
 決ニ對シ故障ヲ爲サルキハ評定委員ノ裁定トシテ會頭及ヒ委員  
 二名ノ署名ヲ有スル封書ヲ以テ納税者ニ通知スヘシ同時ニ納税者



ヨリ故障ヲ申述ヘ得ルヲ及ヒ其場所期限(第二十條)ヲ通知スヘシ  
文書ノ送達ハ第十七條ノ規則ニ從フヘシ

質問ニ係ル議決ニ對シ控訴ヲ爲スモ之ヲ通知スルニ及ハス

第二十條 評定委員ノ裁定ニ對シテハ納稅者ヨリ縣内委員ニ故障ヲ  
申述ルコトヲ得其期限ハ裁定書ヲ受ケタル翌日ヨリ四週間ナリトス  
此期限ヲ經過スルハ故障ヲ申述ル權ヲ失フヘシ且其故障ハ評定  
委員ノ會頭ニ申述フヘシ

會頭ハ期限ヲ過キタル故障ヲ直ニ却下シ必用ナリトシタルハ期  
限内ニ述ヘタル故障ノ事實ヲ調査シ縣内委員長ノ命シタル書式ニ  
因テ故障明細書ヲ作り其意見ヲ一定ノ部ニ記入シ故障書及ヒ質問  
ニ係ル調書ヲ添ヘテ縣内委員長ノ定メタル期限内ニ之ヲ差出スヘ

シ

第二十一條 評定委員ノ會頭ハ一、所屬等級ノ確定ニ納稅者ノ質問  
ニ係ル委員ノ決議ニ對シ縣内委員ニ控訴ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於  
テ縣内委員ハ其見込ニ因リ評定委員ノ權限ヲ以テ其控訴ヲ裁定ス  
ヘシ評定委員ノ議決又ハ其申立ニ束縛セラル、コナシ會頭ハ其見  
込ニ因リ委員ノ議決納稅者ノ收入又ハ其所屬等級ニ係リ正當ナラ  
ストスルガ又ハ法律規則ニ背キタリトシタルハ控訴ヲ爲スヘシ  
又納稅者ノ收入ノ調査不十分ニシテ其總收入又ハ各種ノ收入高ニ  
疑アリ會頭ヨリ委員ノ權限ニ屬スル調査ヲ命スルモ其命ニ從ハス  
直ニ評定ヲ爲スカ又ハ質問ノ裁定ヲ爲シタルハモ控訴ヲ爲スコ  
ト得(第十五條ヲ見合スヘシ)

分等稅及分等收入稅法



左ノ場合ニ於テハ必ス控訴ヲ爲スヘシ

①縣廳ニ於テ分等收入税ヲ完納スヘキモノトシ其納税者ニ算入スヘキコトヲ命スルモ評定委員ニ於テハ分等收入税ヲ完納スヘキ者ニ非スト認ムルカ又分等收入税ニ評定スルモ質問ヲ爲シタルカ爲メ其納税者中ヨリ除キタル也

②縣内委員又ハ委員長ニ於テ納税者ノ評定下低ナルノ理由ヲ述ヘ委員長ヨリ評定委員ノ會頭ニ改正ヲ命スルモ其意見ニ從ハス以前ノ評定ヲ維持シタル也  
以上ノ場合ニ於テ評定委員ノ會頭ノ意見縣廳又ハ縣内委員ノ意見ニ異ナルトハ其意見ヲ辨明スルモ勝手タルヘシト雖モ必ス控訴ヲ爲シ然ル後縣廳又ハ縣内委員長ニ其意見ヲ變セシムルヲ得

評定委員ノ會頭ヨリ控訴ヲ爲スルハ其事件ノ委員會ヲ終ルマテニ(納税者ノ評定所屬等級ヲ減スル等ニ係ル質問事件)

委員ニ對シ其旨ヲ述フヘシ場合ニ因リ之ヲ述フルコト能ハサル也ハ仍ホ三週ノ延期ヲ爲スコトヲ得レモ必ス以上ノ期限内ニ其未定ナルコトヲ述フヘシ控訴ヲ爲スニハ左ノ手續ニ從フヘシ

第一ノ場合ニ於テハ(第二十一條第一項第一ノ場合ヲ云フ)封書ヲ以テ評定委員ノ確定シタル所屬等級及ヒ其税額ヲ納税者ニ通知スヘシ又同時ニ左ノ條件ヲ通知スヘシ  
評定委員ノ議決ニ對シ會頭ヨリ控訴ヲ爲シタルニ因リ他日縣内委員ノ裁定ヲ通知スルマテハ評定委員ノ確定シタル税額ヲ納ムヘク且縣内委員ノ裁定ニ對シテハ評定委員ノ議決ニ對スル如ク

分等税及分等收入税法



質問ヲ爲シ得ヘキト

會頭ニ於テ控訴ヲ爲スヤ否ヲ決セサルハ之ヲ決シタル後ニ非  
サレハ納税者ニ評定(第十七條)ヲ通知スヘカラス然ラサレハ控  
訴ト共ニ評定委員ノ確定シタル税額ヲ通知スルコト能ハス

然レモ分等税又ハ分等收入税ヲ賦課スヘキヤ否未タ定マラサル  
ハ分等税簿ヲ公告スル前ニ分等收入税ノ評定又ハ未タ之ヲ評  
定セサルハ其旨ヲ納税者ニ通知シ且其期日前ニ分等收入税ヲ  
評定スルコト能ハサルハ先ツ分等税ヲ完納シ他日分等收入税ノ  
不足高ヲ納ムヘキコトヲ通知スヘシ

以上ノ場合ニ於テ分等税簿ヨリ納税者ノ氏名ヲ省キ未タ其簿冊  
ヲ公告セサル前ニ分等收入税ヲ賦課セサルハ評定委員ノ會頭ハ

其所屬團結長官ニ命シテ最高分等税納税者ニ加入セシムヘシ又  
納税者ノ通知書ニハ最高分等税納税者ニ加入シタルコトヲ書加フ  
ヘシ

控訴ヲ爲シタルハ評定委員ノ會頭ハ①ノ雛形ニ因テ明細書ヲ作  
リ一定ノ部ニ之ヲ記入スヘシ(會頭ハ別ニ控訴狀ヲ作り及ヒ收  
入明細書ノ抜萃ヲ添フルニ及ハスト雖モ控訴狀ヲ作り明細書ニ  
之ヲ引用スルモ勝手タルヘシ)以上ノ規則又ハ特別ノ命令ニ因  
リ已レノ意ニ反シテ控訴ヲ爲スヘキハ縣廳縣内委員長又ハ特  
別ノ命令ニ因リ指揮シタル理由ヲ付スヘシ其明細書ハ一通ニ作  
リ附屬書類調書ヲ添ヘ速カニ縣内委員長ニ差出スヘシ

縣内委員長ハ速カニ控訴ノ裁定ヲ爲シ之ヲ明細書ニ記入シテ評

分等税及分等收入税法



定委員ノ會頭ニ送達スヘシ會頭ハ第十七條①②ノ規則ニ因リ納稅者ニ通知スヘシ

第二ノ場合(第二十一條第一項第二ノ場合ヲ云フ)ニ於ケル評定委員ノ質問ニ係ル決議ニ對シ控訴ヲ爲シタルハ評定委員ノ議決ヲ納稅者ニ通知スヘカラス縣内委員ニ於テ裁定ヲ爲シタルハ始メテ通知スヘシ又同時ニ其裁定ニ對シテハ質問ノ裁定ヲ通知シタル後四週間ノ期滿失權期限ニ評定委員ノ會頭ヲ經テ縣内委員ニ故障ヲ申述ヘ得ルコトヲ通知スヘシ

以上ノ控訴ハ評定委員長ノ③ノ雛形ニ因テ作りタル明細書ニ記入シ其附屬書類ヲ添ヘ速カニ縣内委員長ニ差出シ委員ノ裁定ヲ受クヘシ

控訴ノ理由ニ付テハ又以上ノ規則ニ從フヘシ

第二十二條 一年度内ニ納稅者ノ收入ニ増減アルモ之ニ因テ通常賦

課シタル稅額ヲ増減スルモノニ非ス然レモ左ノ場合ニ於テハ課稅

ノ一部ヲ免シ又ハ其所屬等級ヲ下タスコトヲ得(第十八條二)

- 一 陸海軍ノ士官軍醫軍屬ノ出陣中又出陣セサル歩兵大砲隊出陣シタル軍隊ノ補缺兵戰端ヲ開キタル城塞ノ服役中職務上收入ノ稅額ニ付キ最初租稅ヲ賦課スルハ未タ受ケサル收入ノ百分ノ三ニ應スル稅額又俸給ヲ受ケテ休職セラレタルカ退隱料ヲ受クルカ陸海軍ノ士官軍醫軍屬ノ以上ニ從ヒ其俸給又ハ退隱料ニ賦課シタル稅額ノ免稅ヲ求ムルヲ得

二 各別ノ收入ヲ失フタルニ因リ總收入ヲ減シタル高四分ノ一ヲ越

分等稅及分等收入稅法



ユルコヲ證明シ得ルモハ減税ヲ求ムルコヲ得  
 其請求ヲ爲スニハ 一、現ニ収入ヲ失ヒ 二、収入ノ本ヲ失ヒ  
 三、且ツ収入ヲ失フタルニ因リ總収入ヲ減シタル高四分ノ一ヲ越  
 ヌルコヲ要ス

以上ノ事ニ付テハ左ノ箇條ニ注意スヘシ

- 一、此規則ニ於ケル收入ヲ失フトハ納税者自カラ欲セスシテ收入ヲ失ヒタルヲ云フナリ例ヘハ不時ノ事故アリテ資本金ヲ失ヒ災厄ニ因テ家屋ヲ失フカ免職又ハ老年疾病ノ爲メ退隠料ヲ受クルニ因リ官吏ノ收入ヲ減スルカ(老年疾病ニ因リ自カラ退隠料ヲ求メタルモ同シ)家資分散ニ因テ財産ヲ失フ等ヲ云フナリ然レモ納税者自カラ好シテ舊來ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ廢スルカ資

本金ノ一部ヲ讓渡ス等ノ如キ場合ヲ云フニ非ス

- 二、収入ヲ失フトハ其本ヲ失フタルモノヲ云ヒ収入ヲ失フタルヲ云フニ非ス故ニ契約ノ借地借家料貸付ケタル資本金ノ利子又ハ株式會社商社等ノ純益分配金ヲ受ケサルカ又ハ電洪水ニ因テ一時土地ノ收入ヲ減シタル場合ヲ云フニ非ス必ス収入ノ本ヲ失フヘシ例ヘハ資本金ヲ失フ等資本金ニ付テ注意スヘキハ資本金ノ總高ヲ一箇ノ收入ノ本ト爲スヘカラス各別ニ貸付ケタル利子附ノ資本金ハ各一箇ノ收入ノ本ト爲スヘシ

- 三、總収入ヲ減シタル高四分ヲ越ユルニハ減シタル一年ノ總収入先キニ租税ヲ賦課シタルモノ收入四分ノ三ヨリ少ナキヲ要セス其收入ヲ減シタルモヨリ得ル收入高ノ先キニ租税ヲ賦課シタル一

分等税及分等收入税法



年ノ收入四分ノ三ヨリ少ナキヲ以テ足レリトス

例ヘハ租税ヲ賦課スルキ六千「マルク」ノ俸給ヲ受ケ別ニ他ノ收入ヲ有セサル官吏四「マルク」ノ退隱料ヲ以テ退隱シタルキハ其收入ヲ失フタルキヨリ得ル一年ノ收入(四千「マルク」)ハ二千「マルク」ヲ減シタリ故ニ先キニ租税ヲ賦課シタルキノ一年ノ收入四分ノ一以上ヲ減シタルナリ十月一日ニ退隱シタルト爲セハ一年度ニ於テ(四月一日ヨリ翌年三月三十一日マテ)止タ千「マルク」ノ減收入ナレモ所屬等級ヲ減センカ爲メ四千「マルク」應スルニ請求ヲ爲スコヲ得

第二十三條 以上ノ免稅減稅ハ左ノ手續ニ從フヘシ

一 第二十二條一ノ場合ニ於ケル免稅ハ納稅者ヨリ願出サルモ評

定委員ノ會頭ニ於テ其事由ヲ知リタルキハ職權ヲ以テ縣廳ニ申立ツヘシ縣廳ハ現在ノ收入ニ相當スル稅額ニ減セシムヘシ

二 第二十二條二ノ場合ニ於ケル減稅ハ納稅者ノ願ニ因テノミ爲スコヲ得且願出タル翌月ヨリ爲スヘシト雖モ特別ノ事由例ヘハ收入ヲ失ヒタル後始メテ稅額ヲ知リタルカ又其時ノ情況ニ因リ速カニ減稅ヲ願出ルコ能ハサルキハ大藏卿ノ許可ヲ得テ願出タル年月ニ拘ハラズ收入ヲ失ヒタル翌月ヨリ減稅ヲ爲スコヲ得  
減稅願ハ評定委員ノ會頭ニ差出シ會頭ハ意見ヲ添ヘテ之ヲ縣廳ニ差出スヘシ但會頭ニ於テ收入ヲ失フタル翌月ヨリ減稅スルコト相當ナリト認メタルキハ大藏卿ノ許可ヲ受クヘキコトヲ申立ツヘシ然ル後縣廳ハ第二十二條ノ事由アルヤ否ヲ檢査シ事由アリト  
分等稅及分等收入稅法